

平成 28 年 度

事 業 報 告 書

(事業報告 ・ 附属明細書)

自：平成 28 年 4 月 1 日

至：平成 29 年 3 月 31 日

社会福祉法人 つどいの家

目 次

I 法人経営に関する事項	1
1. はじめに／理事長総括	1
2. 経営方針実現に向けての取り組みと評価	1
3. 平成 28 年度重点事業に対する取り組みと評価	2
4. 財務状況・財産状況	3
5. 広報・啓発活動に対する取り組み	4
6. その他の法人経営に関する取り組み	4
II 法人の現況に関する事項	6
1. 法人概要	6
2. 役員・評議員等の状況	7
3. 理事会開催の状況	8
4. 評議員会開催の状況	10
5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	10
6. 監査等の状況	11
7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	12
8. 地域における公益的な取組の状況	13
9. 職員の状況	13
III 事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）	17
1. 仙台つどいの家	17
2. つどいの家・コペル	20
3. つどいの家・アブリ	23
4. 八木山つどいの家	26
5. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	29
6. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」	32
7. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」	35
8. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	38
9. グループホーム（共同生活援助事業）	42
IV 参考資料	45
1. 利用実績（日中活動・地域生活・居住支援 各部門）	46
2. 寄附金受領状況	65
3. 補助金・助成金受領状況	67

I 平成28年度 法人経営に関する事項

1. はじめに ／ 理事長総括

法人の基本理念に従って、理事長が以下7項目の経営方針をたて、各所管理者と事務長、理事長による経営会議で協議しながら、事業を推進してきた。以下は、その総括であるが、その経営会議の中で、社会福祉法人制度改革にあたり、マスタープランの見直しを図る提案がなされ、経営方針を見直し、より俯瞰的な視野で、かつ具体的に基本構想としてまとめることとなった。従って、29年度はその基本構想をもとに法人の理念の実現を図っていく。しかし、一人ひとりの自己実現支援には、職員も仕事を通して自己実現できる環境整備が必要であり、共生社会の実現を考えるとき、経営と福祉は、相容れないとも悩む。

2. 経営方針実現に向けての取り組みと評価

方針 1 本人の意志を大切にし、本人主体の支援に努める

- 職員にしっかりと浸透している理念であるが、意思確認のスキルが追い付いてはいない。緻密なケースワークやソーシャルワークが必要である。
- 震災前まで、利用者一人ひとりに焦点を当てて寄り添い、それぞれの思いの実現のために、地域資源を開拓し活用を図っていく様（ソーシャルワーク）を映像にして実践発（すてーじ）を行っていたが、近年、事務仕事や雑務に追われ、職員に余裕がなくなり、途絶えていた。今年度、仙台つどいの家が6年ぶりに復活した。これを、全事業所で取り組み共有できれば、本人主体の支援にむけての職員のスキルアップに繋がるはずだ。
- 現実は、職員の仕事量は膨大になるばかりで、時間外勤務が増え、過重労働になりかねない。職員の力量アップ、国の支援量アップ（給付費）を待ちながら実現していく。

方針 2 質の高い安心安全のサービスのために、職員養成に力を入れる

- 職員研修養成委員会による研修会開催が、機能化してきた。非常勤職員研修日を設けたことも好評で、休館にあたっての利用者の苦情もない。
- 資格取得奨励助成制度を活用する職員もでてきた。また、資格手当でモチベーションが上がりばと願っている。

方針 3 雇用の工夫により職員を確保し、適正な労務管理のもと職員が楽しく安心して働く職場をつくる

- 就業規則、給与規程の見直し（産休、育休、介護休暇、登録ヘルパーの労働契約化、多様な働き方の受け入れに備える労務管理の明確化）により、退職者が減少した。
- 有料職業紹介会社に高額な金を払って確保しなければならなかつた事例もあり残念であった。そこで、ターゲットを若者にしたプロモーションビデオの作成も試みた。
- 仕事に対する職員の満足度調査を行い、検証を進めている。
- うつ症状で休業している職員がいる事を厳粛に受け止め、労動衛生管理に努めたい。

方針 4 リスクマネジメント、コンプライアンス遵守に努める

- 各所のヒヤリハット事例を、事業運営委員会で検証共有し、環境改善の必要を認識。

- 防災マニュアルの見直し（火災・震災のみならず洪水や、防風雨）にも対応するために地域や行政とのタイアップが必要であることを確認した。広瀬川の氾濫の場合、法人本部のあるつどいの家・コペルに災害対策本部を置けない。今後の課題である。
- 各種保険の見直しを行った。
- 労働基準法に違反しない働き方の推進のために、職員の意識改善の話し合いを始めた。各職員の事務処理能力を高め、長時間労働を減らしていくかなければならない。

方針 5 柔軟な組織運営体制（可視化、共有化）で職員の力を最大限に生かす

- 毎月行う経営会議には全事業管理者が参加して、何事もみんなで協議するというスタイルを貫いてきたが、極めて非能率ではあった。経営と事業運営との兼任の負担を背負っていける管理者も、そういない。役割分担を明確にしたい。
- 経営部門・事業運営部門・情報交換部門毎に各種会議を開き、会議の意思を尊重し、可視化共有化を計ってきた。職員の力が有効に生かせたかは疑問だが、声は反映。

方針 6 利用者と共に、街にくり出して活動を続け、イベント等の開催で、地域交流の場をつくりだす

- 各事業所とも、利用者と共に街に繰り出て活動している。街の人の目に触れることで、障害の理解を進めていく役割があるからである。
- イベントの開催も各所取り組んでいる、地域差もあるが、事業管理者の意識の差や、職員の力量の差があり、十分に地域を巻き込めずにいる事業所もある。するべきことは限りなくあるが、しかし、人手も、費用もたりないのである。

方針 7 企業や地域の人々の協力をあおぎ、バザー等の収益事業や後援会員増口運動、募金箱の設置等で、資金確保に努める

- 八木山つどいの家改修にあたっては、多くの市民の協力を得ることができた。バザー、後援会費、募金箱は、当法人の重要な財源である。なお一層の協力を仰いでいきたい。企業への働きかけは、まだできていない。

3. 平成 28 年度重点事業に対する取り組みと評価

重点事業 I グループホームの建設

建物の建設は順調に進んだ。すでに開設しているが、男性職員の確保がむずかしく、全日はお預かりできないでいる。法人全体でカバーしているが、負担が大きい。

重点事業 II 八木山つどいの家の改修と機能変更

外壁のモザイクタイルは、効果的であった。生活介護としての活動も順調である。

重点事業 III 人材育成

理事会でホームページリニューアル予算が承認され、年度末から開設している。人材育成、人材確保につながる運営を心がけていきたい。

重点事業 IV 組織編制

今回の法改正により組織を編成し直した。それぞれの部門の役割を明確にしたつもりである。どう機能するかは今後の課題である。

4. 財務状況・財産状況

(1) 貢献状況の推移

勘定科目	平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比
サービス活動収益(1)	757,794	720,994	5.1 %
サービス活動費用(2)	803,514	760,976	5.6 %
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 45,720	△ 39,982	— %
サービス活動外増減差額(4)	12,261	13,151	△ 6.8 %
経常増減差額(5=3+4)	△ 33,459	△ 26,831	— %
特別増減差額(6)	15,966	13,329	19.8 %
当期活動増減差額(7=5+6)	△ 17,493	△ 13,502	— %

(2) 資産・負債等の推移

勘定科目	平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比
資産合計	1,247,005	1,299,339	△ 4.0 %
負債合計	186,534	189,124	△ 1.4 %
純資産合計	1,060,471	1,110,215	△ 4.5 %

(3) 借入金の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

借入先	借入用途	元金残高 (千円)
独立行政法人 福祉医療機構	コペル建設資金	3,840
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	8,645
独立行政法人 福祉医療機構	アブリ土地取得・建設資金	57,876
独立行政法人 福祉医療機構	さくらはうす(GH)災害復旧資金	2,113
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	41,976
宮城第一信用金庫	ひこうき雲(GH)土地取得資金	605
(借入金 合計)		115,055

※平成 28 年度新規借入額：なし

(4) 補助金・寄附金等の状況

(単位 : 千円)

補助種別	平成 28 年度	平成 27 年度	前年度比
事業運営費	99,384	101,438	△ 2.0 %
人件費(職員加配)	37,718	41,318	△ 8.7 %
施設設備整備等	8,779	1,410	522.6 %
その他	395	324	21.9 %
寄附金	20,096	18,493	8.7 %

5. 広報・啓発活動に関する取り組み

(1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第22号 平成28年8月31日発行（発行部数：1,200部）

同 第23号 平成29年3月31日発行（発行部数：1,100部）

※第23号より、タイトルロゴ案を職員より募集し、スタイルを一新しました。

(2) ホームページによる情報開示

財務諸表等のインターネット公開義務化に基づき、事業報告、財務諸表、法人現況報告書等の情報をホームページ上で開示しました。

また、スマートフォンの普及に伴い、Web媒体を通して、法人及び事業運営に係る取り組みを積極的に発信し、外部からの共感や様々な支援を得ること、また求職者の裾野を広げ、人材確保に繋げることを目的に、法人ホームページを全面的にリニューアルしました。

(3) 啓発活動

しうがいのある方の人権と差別のない社会の構築を目指す法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として以下の上映会を開催しました。

内 容 ドキュメンタリー映画「不思議なクニの憲法」の上映

日 時 平成28年9月22日（木・祝日）

場 所 宮城野区文化センター パトナホール（コンサートホール）

入場者数 113名

※職員研修の一環として別途「試写会」を実施

6. その他の法人経営に関する取り組み

(1) 福祉サービス等における苦情対応など

【苦情解決委員会実施状況】

日 時	協議内容	出席者数
第1回 H28.10.21（金）	平成28年度上半期(4~9月)における苦情受付内容 および解決に至った経過検証など	第三者委員 3名／3名 受付担当者 6名／9名 解決責任者 6名／8名
第2回 H29.3.15（水）	平成28年度下半期(10~3月)における苦情受付内容 および解決に至った経過検証など	第三者委員 2名／3名 受付担当者 5名／9名 解決責任者 8名／8名

【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
仙台つどいの家	利用者の呼称に対する苦情/法人内他事業所 作業品（菓子）の賞味期限の表記に対する苦情/購入者	解決済 解決済
つどいの家・コペル	車の運転についての苦情/近隣	解決済
つどいの家・アブリ	利用者の傷痕（原因不明）に対する苦情/家族	解決済
ぴぼっと支倉	レスパイト送迎遅延時の対応（連絡入れず）に関する苦情/家族 書類等の発送ミスに関する苦情/家族 利用者への服薬ミスに関する苦情/家族	解決済 解決済 解決済
ぴぼっと南光台	ヘルパーの言動や支援方法等に関する苦情/家族	解決済

	書類等の発送ミスに関する苦情/家族 共通認識が不十分のまま、ヘルパー利用の際にタクシーチケットを使用したこと、及び外出先の意思確認方法や記録内容等に関するヘルパー対応等についての苦情/家族	解決済
	レスパイトサービス利用受付対応に関する苦情/家族	解決済
ピボット若林	事業所前の道路での車両の駐車に関する苦情/近隣	解決済
	入浴介助中の事故報告	解決済
※合計13件 (内訳) 利用者の家族からの苦情: 8件、事業所の近隣住民からの苦情: 2件 第三者からの苦情: 1件、法人内職員からの苦情: 1件、事故報告: 1件		

(2) 第3期法人基本計画（マスタープラン）最終評価と次期計画案策定に向けた取り組み

平成24年度より施行している第3期マスタープランについては、項目(課題)ごとにその進捗状況等を評価し、課題解決に向けた取り組みと情報の全体共有、新たに見出された諸課題の発見等に繋げております。第4期プラン策定は、社会福祉法人制度改革などの対応や社会情勢等を見極めるため先に見送り、基本計画の上位にあたる「基本構想」を策定しています。

(3) その他事務手続き

◆ 登記に関する事項

- ・資産総額変更登記 (5/27)
- ・代表者重任登記 (7/5)

◆ 行政手続き

- ・社会福祉法人現況報告書提出/仙台市 (6/16)
- ・公益法人等における収支計算書提出/税務署 (7/28)
- ・定款変更認可申請/仙台市 (12/22 認可)

◆ 仙台市長への要望書提出(平成28年8月9日付提出) (法人単独提出)

(1) 相談支援事業について

- ① 仙台市障害者相談支援事業における委託費の是正について
- ② 指定特定(指定障害児)相談支援事業所における仙台市独自の補助制度の創設について
- ③ 仙台市における相談支援体制の今後の方向性について

(2) 既存レスパイト事業所(仙台市障害者家族支援等推進事業)における自動火災報知設備設置等義務化に伴う補助の創設について

(3) 重いしうがいのある方が地域で安心した暮らしができる場(グループホーム)の拡充等について

- ① グループホームにおける仙台市独自の家賃補助制度の創設について

- ② 仙台市共同住居整備促進事業補助金の見直しについて

- ③ グループホームにおける仙台市重度障害者対応型共同生活援助事業費補助の要件緩和について

- ④ 仙台市自立体験ステイ事業補助事業の抜本的な見

◆ グループホームにおけるスプリンクラー設備整備

- (1) 仙台市障害福祉施設整備費補助事業(27年度事業)
 - ・「にじいろ」を除く全4ホームへの設備整備
 - ・総事業費: 20,628,000円
 - ・補助確定額: 5,179,000円 (補助率 25.1%)
 - ・補助確定日: 平成28年10月7日

- (2) 仙台市共同生活住居整備促進事業(28年度事業)
 - ・「にじいろ」における設備整備
 - ・総事業費: 3,102,624円
 - ・補助確定額: 1,500,000円 (補助率 48.3%)
 - ・補助確定額: 平成28年10月21日

◆ 契約執行に関する事項

- (1) グループホーム送迎車輌賃貸借整備
 - ・指名競争入札 6社指名中4社応札
 - ※開札日: 平成28年7月15日
 - ※落札業者: オリックス自動車㈱
 - ※落札金額: 4,031,424円 (落札率: 75.3%)

(2) コペル改修工事に伴う設計業務委託契約

- ・随意契約(1社)
 - ※業務内容: 浴室改修工事に伴う設計業務
 - ※契約日: 平成28年7月1日
 - ※期間: 基本設計/7月1日～7月5日
 - 実施設計/7月1日～7月31日

※契約業者: 株式会社東北支所

※契約金額: 1,209,600円

(3) コペル改修工事に伴う監理業務委託契約

- ・随意契約(1社)
 - ※業務内容: 浴室改修工事に伴う監理業務
 - ※契約日: 平成29年3月1日

直しについて

(4) 仙台市若林区遠見塚 2 丁目 16 番 15 号の市有地(現「ピボット若林」所在)における(仮称)グループホーム管理センター開設・運営に伴う無償貸与および地域生活サポートセンター「ピボット若林」の移転について

(5) 仙台市障害者福祉センターにおける福祉避難所としての受入対象者の是正・見直しについて

(6) 福祉人材確保に向けた官民協働の取り組みについて

(仙台市知的障害者関係団体連絡協議会経由) 7/14 提出

※期 間：3月2日～7月31日又は工事完了日
 ※契約業者：株式会社東北支所
 ※契約金額：1,118,000円

(4) ホームページ制作業務委託契約

- 企画提案型複数業者見積り合わせ 3社プレゼン

※業務内容：ホームページ全面リニューアル
 ※契約日：平成29年2月16日
 ※契約業者：株式会社パレサー
 ※契約金額：1,549,800円

II 法人の現況に関する事項

1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家
 (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田1丁目17番58号
 (3) 事業種別

第2種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、自立訓練(生活訓練)、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助) 相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営 移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営
公益事業	障害者家族支援等推進事業 福祉有償運送事業 自立体験ステイ事業

(4) 事業の種類及び名称など (平成29年3月31日現在)

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定 員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町3	山口 収	生活介護	30名	37名
			特例生活介護・児童発達支援	10名	8名
つどいの家・コペル	若林区上飯田1	石道 敦	生活介護	40名	47名
			特例生活介護・児童発達支援	10名	6名
つどいの家・アシリ	太白区山田本町	大畠貴司	生活介護	30名	33名
			特例生活介護・児童発達支援	10名	7名
八木山つどいの家	太白区八木山本町1	佐藤秋男	生活介護	20名	17名
若林障害者 福祉センター	若林区遠見塚東	若生 滋	生活介護	9名	10名
			自立訓練(生活訓練)	6名	1名
ぴぼっと南光台	泉区南光台3	福地慎治	指定特定相談	—	59名
			指定障害児相談	—	8名
			居宅介護等 ※1	—	64名

			障害者家族支援等	—	97名
			福祉有償運送	—	18名
ピボット支倉	青葉区支倉町	山口 収	指定特定相談	—	140名
			指定障害児相談	—	71名
			指定一般相談	—	一名
			委託相談支援	—	192名
			障害者家族支援等	—	94名
			福祉有償運送	—	4名
ピボット若林	若林区遠見塚2	渡部正史	指定特定相談	—	115名
			指定障害児相談	—	16名
			指定一般相談	—	一名
			委託相談支援	—	73名
			居宅介護等 ※1	—	98名
			障害者家族支援等	—	94名
ひこうき雲	若林区沖野3、他	飯田克也	共同生活援助	24名	24名

2 役員・評議員等の状況 (平成29年3月31日現在)

(1) 理事・監事 (理事定数: 9名 監事: 2名)

役職名	氏名	他法人兼務状況(注1)	理事会出席状況(注2)	その他参考情報
理事長	下郡山 和子	なし	7回／7回(100%)	
常務理事	佐藤 吉久	なし	7回／7回(100%)	
理事	高橋 治	他法人理事長	7回／7回(100%)	H29.4.1～評議員就任
理事	下郡山 徹一	なし	7回／7回(100%)	
理事	阿部 達	なし	7回／7回(100%)	
理事	細井 実	他法人理事長	7回／7回(100%)	H29.4.1～評議員就任
理事	三浦 俊一	なし	7回／7回(100%)	H29.4.1～評議員就任
理事	川住 隆一	なし	7回／7回(100%)	H29.4.1～評議員就任
理事	久保野 恵美子	なし	7回／7回(100%)	H29.4.1～評議員就任
監事	村上 秀一	なし	3回／7回(43%)	
監事	内出 琢也	なし	4回／7回(57%)	

*任期: 平成28年6月25日～平成29年度定時評議員会終結の日

(注1) 他の社会福祉法人の役員、評議員、職員の兼務状況を表記

(注2) 定款に規定する書面による出席を含む

(2) 評議員 (評議員定数: 19名、欠員1名)

氏名	区分	評議員会出席状況	氏名	区分	評議員会出席状況
下郡山 和子	理事長	6回／6回(100%)	中村 祥子	福祉従事者	1回／6回(17%)
遠藤 克子	学識経験	5回／6回(83%)	赤井澤 勝子	利用者家族	5回／6回(83%)

高橋 誠一	学識経験	2回／6回(33%)	東 弘道	利用者家族	6回／6回(100%)
車塙 潤	学識経験	2回／6回(33%)	阿部 悠紀子	利用者家族	4回／6回(67%)
菅井 裕行	学識経験	1回／6回(17%)	高橋 和	利用者家族	3回／6回(50%)
後藤 道子	地域代表	2回／6回(33%)	山口 収	職員	4回／4回(100%)
飯塙 定男	地域代表	5回／6回(83%)	石道 敦	職員	6回／6回(100%)
角張 有孝	地域代表	5回／6回(83%)	渡部 正史	職員	6回／6回(100%)
大森 巍	地域代表	5回／6回(83%)	飯田 克也	職員	6回／6回(100%)

*任期：平成28年6月25日～平成29年3月31日

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数:3名)

氏名	区分	委員会出席状況	備考
村上 秀一	監事	1回／1回(100%)	
若生 滋	事務職員	1回／1回(100%)	※互選により委員長就任
後藤 道子	外部委員	1回／1回(100%)	

*任期：平成29年1月28日

～選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の日

3 理事会開催の状況

月 日	議案内容	採決	役員出席
第1回 H28.5.28(土)	第1号 平成27年度事業報告に関する件 第2号 平成27年度決算及び監事監査報告に関する件	可決 可決	理事9名 (内書面1名) 監事2名
第2回 H28.6.22(水)	第1号 理事、評議員及び監事の選任に関する件 『概要』平成28年6月24日をもって任期満了となる理事、評議員及び監事の次期改選について審議	可決	理事9名 (内書面3名)
第3回 H28.6.22(水)	第1号 理事長の互選に関する件 『概要』役員改選に伴う理事長の互選 第2号 常務理事の選任に関する件 『概要』役員改選に伴う常務理事の選任 第3号 顧問の選任に関する件 『概要』定款に規定する顧問選任(選任者なし) 第4号 理事長の職務代理者の選任に関する件 『概要』定款に規定する理事長の職務代理者の選任	可決 可決 可決 可決	理事9名 (内書面3名)
第4回 H28.9.3(土)	第1号 八木山つどいの家の事業移行に伴う運営規程の創設案等に関する件 『概要』平成28年10月1日付けで障害福祉サービス事業(生活介護)に移行することに伴う運営規程創設案等の審議 第2号 グループホーム開設に伴う運営規程の一部改正案等に関する件 『概要』平成28年10月1日付けでグループホーム「にじいろ」を開設することに伴う運営規程の改正案等の審議 第3号 平成28年度第1次補正予算案に関する件 『概要』総収入9,460千円、総支出8,856千円の増額補正案(主に、新設GHスプリンクラー設備整備、コペル浴室改修設計費など)	可決 可決 可決	理事9名 (内書面2名) 監事1名

	第4号 改正社会福祉法への対応等に関する件 『概要』改正社会福祉法等の本格施行(平成29年4月1日)に伴う準備、対応等に関する経過報告など	—	
第5回 H28.12.3(土)	第1号 平成28年度経営・事業運営等中間報告に関する件 『概要』平成28年度上半期における経営・事業運営状況などに関する報告など	—	理事9名 (内書面2名) 監事2名
	第2号 社会福祉法等の改正に伴う定款変更等に関する件 『概要』改正社会福祉法等の施行に伴う定款変更案及び評議員選任・解任委員会運営細則案創設について審議	可決	
	第3号 育児・介護休業法等の改正に伴う規則の一部改正案に関する件 『概要』改正育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(平成29年1月1日施行)に伴い、関連する規則の改正案について審議	可決	
第6回 H29.1.28(土)	第1号 評議員選任・解任委員の選任に関する件 『概要』改正社会福祉法等及び新定款に基づく評議員選任・解任委員の選任案について審議	可決	理事9名 (内書面1名) 監事2名
	第2号 評議員及び役員等の候補者選任に関する件 『概要』評議員選任・解任委員会に推薦する新評議員候補者の選任等について審議	可決	
	第3号 役員等報酬および費用弁償規程の一部改正案に関する件 『概要』役員等の報酬に関する基本的な考え方および報酬額などを定める規程(基準)の改正案について審議	可決	
	第4号 平成28年度第2次補正予算案に関する件 『概要』総収入7,104千円、総支出23,102千円増額補正案(主に、G H 4棟スプリンクラー設備整備、積立金増額等)	可決	
	第5号 次期法人中長期基本計画(マスターplan)策定に伴う経営戦略等に関する件 『概要』次期マスターplan策定に伴う経営分析等	—	
	第1号 理事の選任に関する件 『概要』平成29年4月1日から欠員となる理事の選任	可決	理事9名 (内書面1名)
第7回 H29.3.22(木)	第2号 定款施行細則の改正案に関する件 『概要』新定款(平成29年4月1日施行)の市長認可及び改正社会福祉法等の対応を踏まえた細則の全部改正案	可決	
	第3号 地域生活支援諮問委員会実施要綱案及び同委員選任に関する件 『概要』新定款に規定した「地域生活支援諮問委員会」実施要綱案及び同委員の選任	可決	
	第4号 法人基本構想案及び経営戦略策定に関する件 『概要』法人基本構想(長期将来構想)の創設案などの審議	可決	
	第5号 法人本部における積立金再配分に関する件 『概要』法人の財務事情や短中期的に想定される福祉ニーズ等への対応資金を確保するための既存積立金の再配分案について審議	可決	
	第6号 管理職の人事案に関する件 『概要』平成29年度管理職人事案について審議	可決	
	第7号 就業規則及び給与規程の改正案に関する件 『概要』法改正による組織体制の見直し、平成29年度障害福祉サービス事業等報酬改定(処遇改善加算)を見据えた規程改正案	可決	

	第8号 改正社会福祉法等の対応等に伴う諸規程の改正案に関する件 『概要』事務決裁規程、旅費規程及び経理規程の一部改正案	可決	
	第9号 平成29年度事業計画案に関する件	可決	
	第10号 平成29年度当初予算案に関する件 『概要』収入総額：974,314千円、支出総額：999,550千円（收支差額： △25,236千円）	可決	
	第11号 つどいの家・コペル改修工事実施計画案に関する件 『概要』清水基金助成金の交付決定を受け、つどいの家・コペル浴室の改 修工事実施計画案及び施工業者選定方法等に関する審議	可決	

4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回 H28.5.26（木）	第1回理事会に同じ	全議案 可 決	評議員 14名
第2回 H28.6.21（火）	第2回理事会に同じ	全議案 可 決	評議員 11名
第3回 H28.8.24（水）	第4回理事会に同じ	全議案 可 決	評議員 12名
第4回 H28.12.2（金）	第5回理事会に同じ	全議案 可 決	評議員 12名
第5回 H29.1.26（木）	第6回理事会に同じ (但し、第5号議案を除く)	全議案 可 決	評議員 11名
第6回 H29.3.21（火）	第7回理事会に同じ (但し、第6号議案を除く)	全議案 可 決	評議員 16名

5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

(1) 評議員選任・解任委員会

月 日	議案内容	採決結果
第1回 H29.3.4（土）	第1号 委員長の互選に関する件	互選により委員長選任
	第2号 評議員の選任に関する件	事務局提案を承認

(2) その他の会議・委員会

部門	会議名	主たる内容・成果	構成員	実施回数
主要会議	経営会議	経営方針立案、人事案など	理事長及び管理職者	26回
	法人設立25周年記念行事準備委員会	平成29年度開催事業の企画検討と諸準備	経営会議メンバー、各事業所1名	5回
	事業運営会議	各事業課題抽出と解決策立案など法人内ヒヤリハット集計・検証等	経営会議メンバー、事業運営部門主担当	4回
	マスタープラン推進委員会	第3期マスタープラン進捗管理、第4期計画策定、検討など	経営会議メンバー、各部門1名ほか	14回

	衛生委員会 (全体・コペル)	労働安全衛生法に定める事項の検証ほか	産業医、衛生管理者、及び経営会議で定めた者	12回
経営部門委員会	権利擁護・虐待防止委員会	権利擁護・しうがい者への虐待防止全般にわたる検討。虐待防止ガイドライン運用と意識向上など	経営会議で定めた者	5回
	防災委員会	法人総合防災マニュアルの整備、事業所内避難所機能の在り方、B C P策定検証、他	各事業所防災担当者	5回
	職員研修養成委員会	職員研修企画立案、実行など	経営会議で定めた者	5回
	新グループホーム創設プロジェクト委員会	平成28年度創設G Hの開設準備(人員確保、ソフト・ハード両面の整備、課題解決など)	経営会議で定めた者	6回
	八木山推進プロジェクト委員会	生活介護移行に向けた検討、改修計画立案、事業運営内容等及び経営状況等の検証など	経営会議で定めた者	4回
事業運営部門	居住支援検討委員会	今後のグループホーム開設に向けた課題検討、居住管理センター開設検討など	G H管理者及び経営会議で定めた者	5回
	地域生活支援検討委員会	地域生活支援事業又はサポートセンターとしての共通・固有の課題解決、情報共有など	サポートセンター長、レスパイト、相談支援、ヘルパー事業担当者	4回
	日中活動支援検討委員会	共通・固有の課題解決、情報共有・共通認識など	通所事業管理者、サービス管理責任者	5回
	医療的ケア検討委員会	医療的レスパイト事業の安定したサービス提供に向けた課題検討、支援員による喀痰吸引等に関する共通理解、情報共有など	経営会議で定めた者	4回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	職種毎、部署毎の従事者による情報交換、事業を担当する職員間での連絡調整など	通所管理者、栄養士、調理員	2回
	PT・OT情報交換会		PT・OT	2回
	看護師会議		看護師	4回
	日中活動サビ管連絡会		日中活動支援部門サービス管理責任者	4回
	日中活動チーフ連絡会		通所:各サビ管・各チーフ	3回

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
H28.5.21（土）	事業年度（平成27年度）に係る業務執行状況及び財産状況	村上監事 内出監事	業務の効率化・合理化を図るために取り組み、人材確保と育成に関する取り組みと創意工夫など
H28.11.19（土）	平成28年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	内出監事	特になし

(2) 外部機関等による監査など

項目	監査内容	監査員	指摘事項等
行政監査等	税務署調査 H28.8.17～19	国税(源泉所得税、消費税)に関する調査 1名	・申告書未提出者の徴収税額は正 ・年末調整課税額の是正など
	労働保険料 算定基礎調査 H29.1.6（金）	労働保険(雇用保険、労災など)に関する調査 職員 2名	・雇用保険喪失者の未手続指導 ・労働保険料未払分の是正
	労働基準監督署 実地調査 H29.2.13（月） H29.2.24（金）	労働時間の適正管理等に関する調査 1名	・最賃改定による不払者(1名)への是正 ・労働時間の記録、現認方法等に関する指導
	事業所実地 H29.2.17（金）	指定障害福祉サービス事業 (グループホームひこうき雲)人事労務管理、経理、利用者処遇 市職員 3名	・事業所開設前の期間中における家賃徴収の是正
	集団指導 H29.3.14（火）	給付事業等に関する届出事務、消防法令、労働基準関係法令、指導監査など —	
	※その他事業所実地監査については実施なし		

7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	平成28年度 利用総数	平成27年度 利用総数	前年度比
生活介護	25,529（名）	24,298（名）	5.1%
特例生活介護・児童発達支援	2,885（名）	2,964（名）	△ 2.7%
自立訓練(生活訓練)	99（名）	85（名）	16.5%
地域活動センター（注1）	1,223（名）	1,739（名）	△ 29.7%
居宅介護	16,312.8（時間）	15,524（時間）	5.1%
重度訪問介護	1,267.5（時間）	1,347（時間）	△ 5.9%
行動援護	250.5（時間）	262（時間）	△ 4.4%
同行援護	501.0（時間）	374（時間）	34.0%
移動支援	14,866.0（時間）	15,170（時間）	△ 2.0%
障害者家族支援等推進事業	26,506（時間）	27,156（時間）	△ 2.4%
指定特定相談支援（計画）	444（件）	456（件）	△ 2.6%
〃（モニタリング）	740（件）	679（件）	9.0%
委託相談支援事業	2,555（件）	3,844（件）	△ 33.5%
障害児等療育支援事業（訪問）	192（件）	182（件）	5.5%
〃（外来）	26（件）	28（件）	△ 7.1%

福祉有償運送事業	404 (件)	239 (件)	69.0%
共同生活援助	6,878 (名)	6,404 (名)	7.4%

(注1) 地域活動センター(八木山つどいの家運営事業)は、平成28年10月1日より「生活介護」に移行

8 地域における公益的な取組の状況

「III 事業運営に関する事項」における各事業所の取り組みに掲載

9 職員の状況

(1) 職員数の現況と推移 (平成29年3月31日現在)

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
227名	8名増	43.9歳	6年2ヶ月
(内訳) 常勤 118名、準常勤 6名 非常勤 73名、嘱託 20名 登録ヘルパー 10名	(内訳) 常勤 1名増 非常勤等 7名増	(内訳) 常勤 36.6歳 非常勤等 51.9歳	(内訳) 常勤 7年3ヶ月 非常勤等 5年0ヶ月

(2) 入退職者の状況

【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	その他	合計
常勤職員	3名	9名	0名	12名
準常勤職員	0名	0名	0名	0名
非常勤職員	0名	5名	0名	5名
登録ヘルパー	0名	1名	12名	13名
嘱託職員	0名	2名	0名	2名
合計	3名	17名	12名	32名

(注1) 登録ヘルパーについては、人事制度等の抜本的な見直しに伴い、平成28年度より請負契約から労働契約に改めました。なお、契約転換者については、「その他」に計上しています。

【退職者状況】

雇用形態\勤続年数	1年未満	~3年未満	~5年未満	~10年未満	10年以上	合計	離職率
常勤	0名 (0名)	1名 (1名)	2名 (4名)	2名 (5名)	0名 (0名)	5名 (10名)	4.2% (8.5%)
非常勤等	3名 (0名)	4名 (4名)	0名 (3名)	3名 (3名)	0名 (0名)	10名 (10名)	9.2% (9.8%)
合計	3名 (0名)	5名 (5名)	2名 (7名)	5名 (8名)	0名 (0名)	15名 (20名)	6.6% (9.1%)

* () 内は前年度退職者数を表記

(3) 新職員確保に向けた取り組み

- ・就職説明会（法人独自開催）／10/8 開催、計5名参加
- ・（大学・専門学校等）学内説明会の実施
- ・職員としての仕事のやりがいや意義などを広く紹介するためのプロモーションビデオを作成
- ・ハローワーク、県福祉人材センター又は民間団体主催就職説明会への参加
- ・その他、求人広告やインターネット媒体等の活用、施設見学会の実施（随時）

企画名	期日	実施場所	対応職員	ブース参加者
① マイナビ主催 就職セミナー	7月23日	アエル	4名	31名
② 福祉の仕事面談会	10月22日	フォレスト仙台	3名	4名
③ 福祉就職フェア in みやぎ	11月13日	トラストタワー	3名	12名
④ 福祉のしごと面談会	1月31日	アエル	2名	6名
(合計)				53名

(4) 職員研修システムの遂行

(職 制)

月	日	曜	項目	内 容	参加者数
4	4 5	月 火	新任職員研修 *4/1入職者	テーマ「職員としての基礎知識」 ～コミュニケーションワーク、ソーシャルアクションとは～ ～法的教育訓練～ 講師：全管理者 会場：つどいの家・コペル	8名
4	14	木	新任考課者研修	テーマ「人事考課の基礎～目的と仕組みの理解」 ～考課の基礎的知識と技術習得、リーダーの育成～ 進行：渡部正史 会場：つどいの家・コペル	9名 /10名
4	14	木	全体研修 (常勤・準常勤)	テーマ「これからの中間管理職の役割、 法人職員が今取り組まなければいけない行動とは…」 ～将来展望や法人の方向性を再確認～ 講師：理事長 下郡山和子 会場：つどいの家・コペル	87名 /107名
5	12	木	1～2級研修① (職位別)	テーマ「生活介護事業」 ～自己決定・意思決定支援、職員の体験談などから学ぶ～ 講師：福地慎治、佐々木健、加藤裕絵、小原弥生 会場：仙台つどいの家	44名 /50名
5	17	火	1～2級研修② (職位別)	テーマ「G H・ヘルパー・レスパイト・相談支援」 ～地域生活支援の役割を学ぶ～ 講師：飯田克也、三浦郁美、堀内孝雄、佐藤春奈 会場：仙台つどいの家	49名 /50名
6	2	木	新任職員研修 *4/2～5/末入職者	テーマ「職員としての基礎知識」 ～法人の理念、沿革及び法人概要など～ ～コミュニケーションワーク、ソーシャルアクションとは～ 講師：理事長、各管理者 会場：つどいの家・コペル	3名
6	14	火	職員座談会 (常勤・準常勤)	ディスカッション「すべて一」 ～利用者の個性を見極め伸ばす支援、本人主体の支援とは C o：理事長 下郡山和子	76名 /107名
7	1	金	非常勤職員等研修	全体テーマ： 「つどいの家の沿革と権利擁護」 講師：理事長 下郡山和子	83名 /101名

				「虐待防止とその対応に関するガイドライン説明」 講師：権利擁護・虐待防止委員会 福地慎治 分科会テーマ： ①障害福祉に関する制度説明と個人情報の適正な取扱い ②しうがい特性について、支援の在り方 ～重心・難病・身体介護を通じて学ぶ～ ③しうがい特性について、支援の在り方 ～発達しうがいなど ④利用者との関係性について～呼称、話し方、関わり方等 ⑤東日本大震災の際のつどいの家は・・・ 講師：管理者 場所：つどいの家・コペル	
9	1	木	新任職員研修 *6/1~8/未入職者	※6/2 実施内容に同じ	1名
9	15	木	経営研修 (役職別)	テーマ「経営管理について」 ～組織の維持管理、総合的戦略形成～ 講師：管理者 佐藤吉久、法人事務局拠点リーダー早坂智毅 会場：つどいの家・コペル、ぴぼっと南光台	32名 /35名
9	28	水	考課者研修①	テーマ「育成と考課の中間振り返り」 ～適切な指導、援助力、評価力の定着～ 進行： 場所：つどいの家・コペル	30名 /44名
12	1	木	新任職員研修 *9/1~11/未入職者	※6/2 実施内容に同じ	4名
12	6	火	考課者研修②	テーマ「考課段階のズレの修正」 ～適切な指導、援助力、評価力の定着～ 進行： 場所：つどいの家・コペル	27名 /44名
10	13	木	3～5級研修 (職位別)	ディスカッション「ディベート」 ～相互の考え方や価値観を知り、視野を広げ、職業に対する態度や共に成長する意識を涵養する	37名 /52名
10	13	木	経営研修 (管理者・事務員)	テーマ「社会福祉法人の経営改革」 講師：東北福祉大学大学院総合福祉学研究科 教授・経済学博士 小笠原浩一氏 場所：つどいの家・コペル	13名

(権利擁護・虐待防止委員会主催内部研修・セミナー等)

内部研修：全事業所共通の内容で実施。1回目は『虐待防止とその対応に関するガイドライン』の読み合わせと同ガイドライン内の基本的な心構えの語句の解釈すり合わせ。2回目はロールプレイを実施し、日々の支援場面において利用者の立場に立つことを学んだ。

話しうべし 自分のこと：法人内生活介護事業所の参加希望者を対象に実施。少人数のグループワークを行ない、自分が通所している事業所で行っていることや好きなこと、大変なことや気になっていることを話し合った。

月	日	曜日	内 容
7	19	火	仙台つどいの家 内部研修①
7	28	木	八木山つどいの家 内部研修①
7	29	金	つどいの家・コペル 若林障害者福祉センター 内部研修① (2事業所合同)

8	25	木	つどいの家・アプリ 内部研修①
8	26	金	ピボット若林 内部研修①
10	3	月	ぴぼっと支倉 ぴぼっと南光台 内部研修①
11	1	火	仙台つどいの家 内部研修②
11	25	金	ピボット若林 内部研修②
10	26	水	グループホーム 内部研修①
12	8	金	つどいの家・コペル 若林障害者福祉センター 内部研修② (2事業所合同)
12	12	月	ぴぼっと支倉 ぴぼっと南光台 内部研修②
12	13	火	八木山つどいの家 内部研修②
12	8	木	つどいの家・アプリ 内部研修②
12	20	火	
1	26	木	グループホーム 内部研修②
12	2	金	はなしすっぺし～自分のこと～ (参加者数) 利用者 15 名 職員 12 名 (事務局としての 委員会メンバーを含む)

(5) 相談支援、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 1名
- ・相談支援従事者現任研修 3名
- ・サービス管理責任者研修 6名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)の継続実施

- ・実務者研修受講 2名
- ・社会福祉士通信教育受講 1名

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・職員全体の労務管理の徹底と明確化、法改正等を踏まえた短時間労働者の多様な働き方等に
対応することなどを目的に、就業規則の抜本的な見直しを図りました。
- ・仕事に関する職員満足度調査の実施と結果検証
- ・仕事と家庭の両立支援に関する行動計画（一般事業主行動計画/平成27年4月1日から5年
間）に掲げる「子供参観日」の実施： 2事業所 職員 3名

III 事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

1 仙台つどいの家 事業報告

【はじめに】

移転後3年を経過し、利用者さんも職員も落ち着いて活動することができた一年でした。これまで同様、ケースワークとコミュニティワークをキーワードに様々な活動を行なってきました。バザー・コンサートなどの行事に加え、地域の住民とのつながりをより広く強固にするための新たな仕掛けをいくつか試みました。『夏まつり』は昨年度の夕涼みコンサートを発展させる形で行ない、父親たちの露店出店をはじめ、ステージ企画に市民センターで活動する幸南復興太鼓など幸町のサークルにも出演いただいたことで、町内を中心に多くの方に来場いただき大いに盛り上がりました。また、『チャリティーコンサート』を宮城野区文化センターのホールを開催し、幸町以外にも仙台つどいの家を応援してくださる方たちの輪が広がりつつある手ごたえを感じることができました。さらに、宮城野区文化センターにて『すべてじ』を6年ぶりに開催しました。これは利用者さん一人ひとりにスポットをあて、それぞれの思いの実現や地域とのつながりなどを映像を通してお伝えするもので、震災前まで毎年行っていた取り組みです。法人内事業所の職員はもちろんのこと、他法人の職員や地域住民、ご家族、当事者等さまざまな立場の方にご覧いただくことができ、一人ひとりにじっくりと寄り添う『ケースワーク』と地域住民にしようがいのある方を正しく理解してもらう『コミュニティワーク』の両方の要素を含むとても重要な行事だと改めて感じました。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針1

- 「すべてじ」の映像作成・上映会実施により、利用者とより深く寄り添うなかで一緒に思いを実現させていくことの重要性を職員一人ひとりが再認識することができた。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針2

- 入職2年目までの職員に対し、自グループ以外のチーフとペア（バディ）を組ませる取り組みを行なった。うまく機能しないペアもあったが、多角的な物の見方を養うきっかけになった職員も見られた。
- 内部研修・各種研修会への参加および他事業所における実習等を通して、個々の職員が大いに刺激を受けるとともに、自身に不足しているものを自覚し学ぶ姿勢を高めるきっかけになった。

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針3

- 日常の『ひやりはっと』や『にこりほっと』の他に、お互いの支援を褒めあう『ぐっどさぼーと』を夕方の打ち合わせで報告し、学びあいやモチベーションアップの機会となっている。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針4

- 『前向きなひやりはっと』を夕方の打ち合わせで報告し、職員全員で確認・検証を行う機会を設けている。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針5

- 利用者の想いを叶える活動を、一人ひとりが自由な発想やアイディアで企画できるような雰囲気づくりを心掛けた。時に利用者さんとともに失敗することも、経験を積むうえで有効に働いている。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 日々の活動や行事を通して、幅広い年齢層の近隣住民と交流できる機会を意識してきた。利用者・住民・職員ともにそれらの関係があたりまえの風景になってきている。
- 利用者自らが開拓した地域との関係性も多くみられている。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- 長期欠席者への個別的な対応により、出席日数が増加傾向にある。
- 学校関係・関係機関への広報により、ボランティアの確保を前年度よりも進めることができた。

【その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
家族との連携	・本人の支援、将来について父親も含め共に考えていく	・施設懇談会の実施、保護者会との共同行事、親父の会など	・父親の参画が進み、本人の日中活動とともに支える意識が少しずつ形になってきている。
地域への働きかけ	・仙台つどいの家の取り組みをより多くの方に知っていただく ・地域の一員として役割を持つ	・町内会や他機関行事への積極的参加 ・とんがらし通信による地域啓発 ・地域店舗への募金箱依頼など	・仙台つどいの家や利用者に対する周辺地域の人の理解が進んだ。
はたらく	・それぞれの「はたらく」を、様々な体験の中で考える	・「めいぶる」でのパン・菓子製造・販売・配達を通して、はたらくことを考える ・缶リサイクルや清掃、地域啓発などそれぞれの役割を見つける	・はたらく喜びや楽しさを知る ・地域の一員として役割を持つことができる
法人事業の推進	・八木山つどいの家の生活介護移行を推進する ・沖野地区新G Hの開設を推進する	・活動や行事などによる事業所間交流 ・職員体制の必要なG Hへのフォロー継続	・両事業所とも移行・開設が予定通り進められた。 ・G Hにじいろについては、体制の不足を法人全体でフォローできている。

【事業実施状況等】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月1・2回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月1・2回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集、ご近所Pほか

< 内外部研修 >

(内部研修)	(外部研修)
・視聴覚しようがい(盲聾)の方のコミュニケーション支援(菅井教授:宮城教育大学)	・リーグの会交換研修
・実習、各種研修報告	・福祉協会交換研修
・食形態(鳴海看護師:訪問看護もりのとびら)	・訪問の家集にて実習
ほか	・サポート研セミナー
	ほか

< 行事等 >

名称	頻度	参加者数	目的など
イエローレシートキャンペーン	月1回	5-10名	地域交流・CSR活用ほか
コンサート	年4回	70-150名	芸術鑑賞・地域交流・地域貢献ほか
親子クッキング	年3回	10名前後	地域交流・地域貢献・
夏まつり	8/5	約200名	地域交流・地域貢献ほか
バザー	10/15	約200名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
すべてじ	12/8	約150名	地域交流・地域貢献・啓発ほか
成人を祝う会	1/20	約80名	成人お祝い

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	保護者	他施設等利用者及び職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	0	0	0	0	28	0	0	0	6	63	6	103
5月	0	0	3	6	21	1	1	2	11	54	8	107
6月	1	0	0	4	27	7	4	11	13	66	2	135
7月	5	0	12	12	37	0	10	5	2	52	19	154
8月	13	0	6	0	19	0	7	0	6	71	8	130
9月	1	0	4	11	23	0	6	0	9	62	26	142
10月	30	0	5	18	65	0	8	0	4	64	10	204
11月	20	0	7	4	28	0	11	0	2	50	4	126
12月	3	2	7	3	29	0	5	0	0	54	12	115
1月	4	0	2	1	33	0	8	0	1	46	18	113
2月	9	0	0	1	31	0	12	0	6	51	13	123
3月	6	0	2	4	40	0	3	0	3	53	10	121
合計	92	2	48	64	381	8	75	18	63	686	136	1,573

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

2 つどいの家・コペル 事業報告

【はじめに】

平成 28 年度は利用者本人が見通しを持って主体的に関われる場の提供を心がけると共に、やりがいや達成感を得られる機会を大切に取り組んできた。特に表現の機会としてのアート活動には力を入れ、N P O 法人アートワークショップ「すんぶちょう」の協力を得ながら一人ひとりの個性が際立つよう素材や手法を工夫しながら進めることができた。

沖野地区に新グループホーム「にいじろ」が開設したこともあり、あらためてコペルの身近な地域からしうがい理解を広めていけるよう意識してきた。近隣小中学校との交流会やコペル通信の発行、サロン活動等を行いながら、利用者と共に発信すること、伝えることに力を入れてきた。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針 1

- 一人ひとりと丁寧に向き合い、本人の思いや気持ちを確認することを大切に進めてきた。あらたな思いを確認することができた一方、1 対 1 で向き合う時間の確保に課題が残った。
- 本人の体験を積み重ねていくために事後のフィードバックを確実に行うことを意識してきた。十分には行えなかったものの、職員が利用者の視点で振り返る意識を持てるようになった。
- サポートブックの作成を進めてきた。作成の過程において利用者、保護者との関係性を深めることができた。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針 2

- 支援員の 3 号研修及び実地研修を進めながら、医療的ケアを必要とする利用者への対応が広がるよう取り組んできた。(平成 28 年度医療的ケア実施支援員：5 名)

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針 3

- 休憩時間の確保や遅くなりがちな退勤時間の改善を図れるよう検討してきた。以前に比べ休憩を取れる職員は増えてきたが、コペル全体としての業務整理とはいわず具体的な改善には至らなかつた。
- 八木山つどいの家や新グループホーム（にじいろ）の進捗状況をタイムリーに共有しながら、法人の取り組みとして職員一丸となり向き合う意識づくりを進めてきた。八木山のカフェを活動で利用したり、にじいろの夜勤体制をとれるよう日中活動の調整を行ったりとコペル全体で法人事業に関わる意識が強まった。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針 4

- 毎月の職員会議でヒヤリハットの検証を行い、事故の背景や利用者の行動予測等の共有化を図ってきた。環境整備や職員間及び事業所間（G H や若副センター）の連携についても整理してきたが、忘れ物や連携不足によるヒヤリハットを減少させるまでには至らなかつた。
- 本部職員も含め事業所職員が 50 名を超えることから、平成 27 年度より衛生委員会を実施してきた。平成 28 年度はメンタルヘルス対策や健康障害の防止・対策等の検討の他、ストレスチェックを初実施。職員のメンタル状況や職場環境の改善に繋がる要素を知ることができた。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針 5

- 日々の体制調整に追われ計画的なOJTの推進ができなかった。
- 外部研修への参加は先進事業所視察研修や他法人事業所への実習等も含め積極的に行えた。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 沖野東小学校、沖野中学校との交流会及び八軒中学校の職場体験受入を実施。しようといのあらんへの理解や福祉への意識が広がった。
- 資格取得のための実習受け入れや介護体験、ボランティア体験受入れを積極的に実施。しようといのあらんへの興味関心を広げることができた。(あらたな担い手の育成)
- 第一町内会夏まつりの共同開催及び沖野市民センターまつりへ実行委員として参加。地域との交流を深めながら地域活性化の一翼を担えた。
- 地域交流として年3回ポラーノサロン(手作りサロン2回、コンサートサロン1回)を実施。広報活動に課題を残しながらも次年度へつながる成果を残せた。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- ランニングコストを抑えるため照明器具のLED化を進めてきた。平成28年度は1階ホールのLED化を実施。一部リース対応とすることで初期投資を抑えることもできた。
- 長期欠席になりがちな利用者に対し、出席率の改善を図れるよう相談支援事業と共に関わりを進めてきた。アプローチを掛けた際には一時改善されたものの、家族が抱える困難さの整理までには至らなかった。
- 利用者の活動環境改善のため大浴室を活動スペースとするための財源確保として清水基金へ応募。720万円の助成金を得ることができた。
- 社会福祉協議会や各学校へ継続したボランティアの呼び掛けを実施。イベント時のボランティアの他、通年で活動ボランティア2名、環境ボランティア(花の提供)1名が増えた。
- 募金箱の開拓を利用者と共に実行したが、会員の拡充やあらたな収益活動は進められなかった。

【その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
居住支援	・暮らしに豊かさと広がりが持てるように	・新GH創設プロジェクトへの参加 ・新GHスタート後の体制協力	・入居予定の利用者、家族の不安を軽減できた ・新GHが無事にスタート
健康へのアプローチ	・加齢にともなう身体の変化への対応	・年齢に応じた運動の機会や日常的な体へのアプローチ ・家庭、GHとの情報共有 ・通院同行による主治医との連携	・利用者の変化や健康不調に気付きやすくなった ・職員の意識が高まった ・散歩やストレッチの時間が思うように確保できなかった
家族との連携	・将来のことを共に考えられる関係性づくり	・保護者会との連携(バザーの土曜日開催) ・にじいろ見学会の実施 ・入所施設及び他法人GH見学会の	・父親のバザー協力が実現 ・次年度の保護者会会长に父親が初就任 ・将来の暮らしの場を主体

		実施 ・保護者懇談会における情報の共有	的に考えていく意識が 生まれた
--	--	------------------------	--------------------

【事業実施状況等】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月1回+臨時	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
ケース会議(全体・各)	月1回	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など
チーフ会議	月1回+臨時	法人・事業所運営の方向性、事業報告、課題検討など
グループ会議	月1回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月2回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
送迎連絡会	随時	送迎コース確認、送迎対応周知、意見交換など
喀痰行為安全委員会	月1回	支援員実地研修進捗確認、研修後の評価確認、課題検討など
販売促進会議	月1回	パン工房、喫茶、作業活動の販売促進に係わる課題検討など
送迎担当者連絡会	年2回	送迎に関する報告・意見召集・確認など
グループホーム連絡会	月1回	ひこうき雲・オキーノ・にじいろとの情報交換、共有など
若福コペル連絡会	月1回	若林福祉センターとの情報交換、共有など
太福コペル連絡会	年2回	太白福祉センターとの情報交換、共有など
保護者懇談会(全体・各)	月1回	活動報告、日程確認、保護者会報告・意見交換など

< 内外部研修 >

- ・権利擁護及び虐待防止について
- ・性への支援について
- ・コミュニケーションエイドについて

*外部研修参加報告及び情報の共有：日々のミーティング及び直近の職員会議にて隨時実施

< 行事等 >

- ・第一町内会納涼夏祭り
- ・コペルでバザー
- ・ポラーノサロン(3回)
- ・新成人を祝う会
- ・すんぷちょWS(4回)
- ・沖野東小学校交流会
- ・沖野中学校交流会
- ・八軒中学校職場体験
- ・沖野市民センター祭り
- ・六郷市民センター祭り
- ・若林市民センター祭り
- ・若林区民ふるさと祭り
- ・若林区役所等販売会
- ・一本杉教会バザー

< 見学・訪問者一覧 >

業者等	関係機関(行政・学校等)	他団体・事業所等	法人内職員	見学	実習打ち合わせ	支援学校実習者	学生等実習者	法人内職員実習者	ボランティア	合計
562	289	55	1291	91	38	18	52	43	286	2871

< 利用状況等 >

「IV 参考資料」に掲載

3 つどいの家・アプリ 事業報告

【はじめに】

平成 28 年度は、グループ編成や館内の環境面の見直しを始めました。発達しうがいや自閉症の障がいの特性を理解するため、生活支援員のみならず、厨房や運転員・事務員も含めた自閉症の研修会を実施し、「自閉症の特性を学んだ者の役割は、その利用者の架け橋になること」を共通理解としました。地域に障がいの理解を進めるためには、まずは職員全員が自閉症について理解していかなければならないのです。また、5 月に利用者の行方不明が発生しました。3 時間半後に無事に発見に至りましたが、その後、このことを深く受けとめて、職員と行方不明時の対応など再確認しました。

職員の人材確保については、体調不良を訴える職員が出るなど課題が残されました。そのため、年度後半、13 時 30 分降所を月 1 回から月 2 回に増やし、業務整理やケースワーク（会議や自宅訪問など）に力を入れ、業務の整理にあたりました。29 年度は人材確保をしながら、利用者の支援につながる実践式の取り組みを実施していきたいと思います。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

- 外出先の拡大
- 利用者の自宅訪問（アセスメント）

経営方針 1

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

- 自閉症に関する研修会／内部研修
- 先進地域への見学・実習

経営方針 2

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

- 年数回の職員面談を実施
- 女性特有の症状について

経営方針 3

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

- 時間外勤務の申請化

経営方針 4

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

- 宮城教育大学ゲストスピーカー
- 八木山つどいの家へ給食の提供（真空調理）

経営方針 5

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

- バザーの開催（株式会社 マルタマさん販売協力）
- 写真展示会（地域の人へ館内開放）

経営方針 6

○ 財務状況の改善、様々な支援の力（マンパワー）を得るための取り組み

- 事務室 LED 化
- 公用車管理（業務委託）
- 電気基本料金の引き下げ

経営方針 7

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
日中活動支援	アセスメント力を高める	家庭訪問の実施	一定の評価あり
家族との関わり	事業（後援会）への理解	後援会事務局担当	家族との連携強化
地域との関わり	地域との関わりを深める	展示会や見学会の開催	障がいの理解深まる
環境を考える	分かりにくさ	環境づくりへの工夫	障がい特性の理解、工夫が必要

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月 2回	事業所内の検討課題について協議
月案会議	毎月	サビ管とチーフが中心になり、活動内容の確認
ケース会議	毎月	利用者のケースワーク、研修会の開催、自宅訪問等
保健担当者打ち合わせ	毎月	サビ管、各チーフ、看護師が中心に利用者の健康に関する打ち合わせを行う。
全体懇談会	隔月	事業所の課題、保護者会との取り組みなど

< 内外部研修 >

内部研修 ・腰痛対策について ・車いすの構造について ・ショートステイについて ・姿勢について ・運転技術について ・福祉とはなにか	・仙台市社会福祉協議会管理者研修 ・富山型デーサービス見学 ・宮城県社会福祉法人経営青年会「公開講座」 ・全国知的障害福祉関係職員研究大会 ・クレーム対応研修 ・人権・倫理委員会（年4回） ・強度行動障害支援者養成研修 ・安全運転管理者講習 ・全国重症心身障がい日中活動支援協議会 ・東北地区知的障害者福祉協会専門研修会 ・OJT指導者研修 ・東北フォーラム 2016 ・市団協視察研修（新潟） ・成年後見セミナー ・日中活動支援部会全国大会 ・障がい者虐待防止リーダー職員研修会 ・社会福祉法人 訪問の家 朋 実習 など
外部研修 ・甲種防火管理講習 ・全国知的障害関係施設長会議 ・宮城県障害者福祉施設職員研修 ・運転者研修会 ・ひかり苑公開講座 ・助成金融資活用セミナー ・衛生推進者養成講座	

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
夏祭り	8月6日（土）	34名	山田町内会の夏祭りに参加、炊き出し実施、仙台七夕に行く
バザ～っす	9月22日（木・祝）	多数	バザーを通じて、地域につどいの家のことを知ってもらう。
山田ふれあい祭り	11月5日（日）	38名	祭りへの参加、販売
イオン黄色いレシート	年7回程度	3・4名	11日に店舗に出向き、呼びかけ（平成28年度：13600円）

< 涉外・他 >

4/11	山田中学校入学式	9/2	尚絅学院大学 訪問
4/15	太白区ネットワーク会議	9/6	仙台医療福祉専門学校 訪問
4/18	後援会総会	9/8	リーの会 打ち合わせ
4/19	山田町内会会長宅訪問	9/27	人権・倫理委員会
4/22	リーの会 総会	9/18	市団協視察研修 打ち合わせ
4/22	県福祉協会 総会	10/14	リーの会 南部ブロック打ち合わせ
5/31	職員会 総会	11/25	イオン 鈎取店 打ち合わせ
6/7	仙台医療福祉専門学校 訪問	12/9	人権・倫理委員会
6/8	リーの会 南部ブロック打ち合わせ	1/18	山田町内会会長宅訪問
6/17	尚絅学院大学 訪問	1/23	山田町内会副会長宅訪問
6/22	宮城教育大学 訪問	2/8	株式会社 マルタマ 打ち合わせ
7/5	上山小学校 訪問	2/24	宮城教育大学 訪問
7/11	株式会社 マルタマ 打ち合わせ	3/10	山田中学校 卒業式
7/14	宮城大学 訪問	3/14	仙台市集団指導
7/14	リーの会 南部ブロック打ち合わせ	3/16	リーの会 打ち合わせ
8/25	宮城教育大学 訪問	3/29	株式会社 アスム療育・研修センター 打ち合わせ
8/31	宮城野区文化センター 上映会打ち合わせ		

< 見学・訪問者一覧 >

(H27. 4.1～H28. 3.31)

	一般来訪者	家族	他事業所等利用者及び 職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4月	21	0	0	2	7	0	0	4	3	20	10	67
5月	20	0	3	4	6	0	0	3	5	14	7	62
6月	22	0	3	3	8	5	0	13	11	10	11	86
7月	21	0	0	11	5	3	0	0	0	13	5	58
8月	20	0	4	2	11	0	1	16	6	15	5	80
9月	22	0	1	3	4	0	0	0	3	9	5	47
10月	19	0	5	3	3	0	0	3	4	16	5	58
11月	20	0	10	6	8	12	0	3	3	11	9	82
12月	19	0	3	5	0	1	0	0	8	13	5	54
1月	17	0	0	3	9	0	0	3	6	12	4	54
2月	20	0	4	2	6	0	7	1	3	11	10	64
3月	22	0	2	4	6	0	4	2	4	11	12	67
合計	243	0	35	48	73	21	12	48	56	155	88	779

< 利用状況等 >

「 III 参考資料 」に掲載

4 八木山つどいの家 事業報告

【はじめに】

小規模地域活動センターから生活介護事業への転換を検討し、年度途中より移行した。後期は利用者数増を想定し、限られたスペースの中で室内空間をどのように生かし活動を組むかが大きな課題となる。また、送迎車両の増車や新たな備品整備など資金面の課題も浮上した。

喫茶店については、メニュー開発や宣伝、地域交流企画は真っ新たな中でスタートしているため、試験的実践を通しながら進めるしかなかった。そうした中ではあるが、地域の温かい支援と地域包括の視点から支持を受け、毎月コンサート等のイベントは盛り上がりを見せている。事業所は幸いにも地下鉄駅と市民センターが近いことや、町内会との連携が成熟していることもあり、地域交流は一定の成果を感じられる。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針 1

- 自己決定の場を設定し、経験や体験の機会を増やすよう行なうが、グループ活動が主となり、個別又は小グループでの実践が少なかった。
- サポートブック（本人の情報を周囲の支援者へ伝えるツール）作成目標に掲げていたが、进展せず。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針 2

- 小規模地域活動センター当時は予算面や改修工事で慌ただしさがあり、外部研修の機会は少ない。生活介護事業へ移行後は、市内開催の外部研修に積極的に参加し研修機会増。
- 内部研修はディスカッション中心で、リーダー育成を意識した内容で開催している。

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針 3

- 小規模地域活動センター当時は狭小スペースかつ事務機器や備品不足等の事務室空間にあつたが、改修工事にて空間や採光等は改善された。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針 4

- ヒヤリハット報告、事故対応マニュアル整備、設備点検など実施するが、意識や経験差により危険予知よりも事故後の検証となってしまう傾向あり。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針 5

- 職員少数により、業務量及び業務負担は否めないが、得意とする職務分担とチーム力で負担軽減を図る。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 地域交流室におけるイベントを毎月開催し、公益的取り組みを推進する。
- 市民センターや地域包括センター、町内会との連携を推進することで地域課題を共有し、関係性は良好。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- 生活介護事業へ移行することで運営面において安定はしたが、利用者増員に伴う支援体制の整備が必要となる。ボランティア確保を進めるが、学生ボランティアは進まず。

【その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
個別支援計画の推進	・意思決定支援 ・充実した活動の展開	・「自分で考え、決め、行動する」機会で選択する力を身につける。 ・自立生活体験やメンバー同士の話し合いの場を設ける。 ・地下鉄活用で出向く機会を増やし、ノーマライゼーションを働きかける。 ・音楽、アート等の多様な体験を通して、余暇の過ごし方を身につける。 ・建物内外を作品展示やガーデニングで季節感のある空間を創出する。	・自分で決め体験する喜びを体得できた。 ・社会参加活動は交通機関より車傾向にあり課題残る。 ・自己表現や出品で喜びを味わえた。 ・建物外観整備に加え、花等で環境は整うが、利用者関わり少ない。
はたらく	作業内容の充実 販売促進 地域交流室の安定した運営	・手作り市見物で現状改善を図る。 ・アート作品や織物の商品化を進める。 ・喫茶室を気軽に利用しやすい場に。 ・地域ニーズを掌握し、コミュニティーカフェとしての在り方を検討する。	・販売会の機会は多く喜びを味わえた。 ・新商品開発に至らず。 ・地域交流イベントを安定して提供できた。
家族・G H	家族、G Hとの関係性	・面談や家庭訪問、電話連絡、G Hとの情報交換会を行なう。 ・施設懇談会を毎月開催する。	・家族、G Hとの関係性は築けるが、保護者の参加は少ない。
福祉サービス	居住区内の福祉サービスとの連携	・地域生活の推進に向けて、相談、ホームヘルプ、レスパイト事業と連携し、福祉サービスにつなげる。	・地域支援事業所は新規登録枠無し。進まず。
地域	改修工事期間中の活動場所の確保 地域課題の取り組み	・市民センターの空室を一定期間利用できるようにする。 ・地下鉄駅周辺の学生ボランティアを募集し、同世代と関わる機会をつくる。 ・高齢化の進む八木山地区で、当事業所の果たすべき役割を検証する。	・活動場所は確保。 ・学生ボランティアが定着せず。 ・連携を図れた。
事業移行	改修工事と館内外整備	・八木山推進プロジェクト委員会を上半期に定例開催。 ・改修工事業者や関係者との調整、並びに移行手続きに関する行政との連携。	・生活介護事業へスケジュール通り移行できた。
防災	B C P計画の策定	・自主防災を強化するため、B C P計画策定と備蓄品や防災備品を整備する。 ・災害時の地域との連携を検討する。	・事業継続計画作成には至らず。 ・土砂災害訓練を実施。
その他	保護者会との連携	・改修工事協力金やバザー開催で収益活動を推進する。 ・共通課題をもとに内部研修のテーマを設定し、課題解決を図る。	・後援会を中心に協力金集めを行なう。 ・内部研修を実施した。

【事業実施状況等】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議（通信編集会議含）	月1回	月予定、グループ活動、課題検討
月案会議	月1回	活動計画
職員会議	月1回	月予定、行事確認、課題検討
ケース会議	月1～2回	個別支援計画の進捗、事例検討
販売促進会議	月1回	商品開発、作業手当、喫茶メニュー、販売会
八木山推進プロジェクト委員会	月1回	生活介護移行にむけて課題検討と準備

< 内外部研修 >

<u>内部研修テーマ</u>	<u>外部研修</u>
安全運転事故対応について	防火管理者講習、地域防災シンポジウム
感染症予防について	さをり指導者研修、八木山地域圏域ケア会議
法人理念から支援について考える	安全運転者講習会、地域生活を支えるシンポジウム
障害者殺傷事件を考える	中堅者職員研修、市団協フォーラム、医療的ケア研修
虐待と差別について	グループホームセミナー、QCサークル研修など
介護休業法を考える など	

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
販売会(区役所・生協等)	毎月 1~2回	各 6名	手作り品販売
八木中祭	9/3	12名	中学生との交流、手作り品販売
一丁目公園祭	9/24	18名	手作り品及びバザー品販売
バザー	10/21	来場約 100名	地域交流、手作り品及びバザー品販売
開所式	10/24	25名	生活介護事業移行(利用者・関係者)
新成人を祝う会	1/17	25名	新成人2名のお祝い(家族・関係者)
地域交流室コンサート	11月~毎月開催	来場毎回 30名	公益的取り組み、地域交流

< 渉外・他 >

4/17 町内会定期総会、班長会	毎月 町内会班長会
5/20 なごやかネット(太白エリア)	毎月 八木山まち物語検討会など

< 見学・訪問者一覧 >

< 利用状況等 >

	一般 來訪	業 者	関 係 機 関	法 人 内 職 員	一 般 見 学 者	支 援 校 見 学 者	他 団 体 見 学 者	支 援 校 等 実 習 者	ボ ラン ティ ア
4月	4	17	3	5					1
5月	4	2	6	5		4		2	1
6月	3	14	7	6	6			3	1
7月	4	2	9	6				6	
8月	4	6	7	9	1		1	2	
9月	10	5	9	10				4	2
10月	8	18	8	11			6		1
11月	6	8	5	2	8			1	4
12月	3	4	5	9		10			2
1月	5	5		9					2
2月	1	8	3	12	5	2			2
3月	6	2	6	6		1			
合計	58	91	68	90	20	17	7	18	16

5 若林障害者福祉センター(生活介護事業・生活訓練事業) 事業報告

【はじめに】

平成 28 年度は、「本人らしい暮らしの充実」、「生活の一部としての医療的ケアの充実」を重点課題として事業に取り組んだ。

生活介護事業では、以前から実施していた医療的ケアについて、新たに 1 名の支援員が研修を終え、より多面的な支援体制を構築することができた。更に、自己表現の一環として続けてきた創作活動では、昨年に引き続き「奈良県障害者芸術祭・ビッグ幡 in 東大寺」に出展した利用者 1 名の作品が入選し、東大寺参道に幡として掲げられ、今後の活動への自信につながった。

また、生活訓練事業においては、高校卒業後数年間たち、利用者・家族共に福祉サービスを初めて利用したことから、当初は戸惑いもあったが、「社会との関わり方」、「働く」ということについて、会社訪問や事業所見学などの活動を通じ、2 年目にして就労継続支援 B 型事業所への通所の目途がついた。

一方、センターの機能として求められている、利用者が一定期間経過後、他事業所への移行については、センター利用が長期に及んでいる現状の中で、平成 27 年度 2 名、28 年度 1 名の移行が出来たことは、一定の成果と考えている。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針 1

- 丁寧なアセスメントを行ない、他事業と連携を図り情報を共有し、その後の個別支援計画に具体に反映させたことで、利用者との関係をより深めることができた。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針 2

- センター内での、自閉症児者の行動理解と対応のための学習会に参加し、支援者間で共通の認識を持つことができた。
- センター内の看護師と医療的ケアについて連携を密に行ったことで、支援員の資質の向上が図られた。

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針 3

- センター内での各部会委員として、積極的にその役割を果たす中で、仕事への自覚を持ったことで、他団体との連携強化が図られた。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針 4

- センター内 5 団体で、権利擁護・虐待防止のための勉強会を行ない、共通の認識が図られた。
- 防災訓練(津波・地震・水防)に参加し、しうがいのある人の安全な避難について、再確認する事ができた。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針 5

- 本人・家族が納得した上で他事業所へ移行できるよう、安心感を持ってもらえることを、キーワードとして、工夫を重ねながら、移行プログラムを作成することができた。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 七夕飾りづくりのため、地域の「折り紙サークル」との交流を通して、利用者の理解を図ることができた。
- 貸館機能を有しているセンターの特色を生かし、地域住民が館を利用した時には、活動を見学してもらうよう積極的に働きかけを行なった。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- 新たな支援を模索するため、若林区内ネットワーク会議や各区障害者福祉センターと有機的な連携を図った。

【その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
しようがいへの理解	専門性を高める	通院同行し、主治医との連携	暮らしの安全の確保
移行機能の推進	地域事業所への移行	居住地で暮す意識の醸成	本人・家族納得の上移行
生活訓練事業の展開	事業推進の為のプログラム化	相談事業所等の訪問	就労への見通しを持った
障害者福祉センターの啓発	活動の場として地域で果たす役割の見える化	他団体と地域活動をコーディネートする	地域でのネットワーク形成

【事業実施状況等】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支援会議	1回/月	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など ＊福祉協会看護師参加
職員会議	1回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月案会議	1回/月	活動・体制調整、車輌使用予定確認など
センター運営会議	1回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1回/月	センター内部研修企画・実施など
喀痰行為等安全委員会	1回/月	支援員による喀痰行為検討、実地研修進捗確認など
看護師連絡会	1回/月	福祉協会職員と利用者の健康や医療的ケアの確認、情報交換など
給食連絡会	1回/月	福祉協会職員と給食調整、課題検討など
送迎・入浴連絡会	1回/月	福祉協会職員と送迎入浴調整、課題検討など

< 内外部研修 >

・医療的ケア研修	・全国知的障害者福祉関係職員研究大会
・医療的ケア事対応訓練	・宮城県社会福祉施設中堅・監督職員研修
・仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修	・東北ブロック重症心身障害日中支援協議会
・仙台市障害者ケアマネジメントリーダー研修	・療育支援研修会

<ul style="list-style-type: none"> ・りーの会視察研修(インクルふじ) ・仙台市障福センター医療的ケア研修 ・障害者福祉センター共通研修 ・障害者福祉センター自立訓練・生活介護事業担当者研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動支援部会全国大会 ・施設職員研修事業中堅者研修 ・全国障害者生活支援研究セミナー ・若林区自立支援協議会実務者ネットワーク会議
---	---

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	目的など
センターまつり	7月24日(1回/年)	まつりを通じ障害者福祉の啓発を行い、地域福祉の拠点として障害者の総合的な福祉の促進を図る
ウェルフェア	10月2日(1回/年)	広く障害者福祉についての関心と理解を深めるとともに、ショウガルのある方の社会参加への意欲を高める
若林区民ふるさと祭り	10月16日(1回/年)	若林区内における総合的な交流の場に参加することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、安全で安心なコミュニティづくりを目指す
六郷市民センターまつり	11月6日(1回/年)	利用者の居住地域の行事に地域の一員として参加する
遠見小学校キャップシティ講座	12月9日(1回/年)	近隣小学校における総合学習にて、ショウガルのある人の講話や体験を通し、障害福祉を広める

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

6 地域生活サポートセンター「ぴっぽと南光台」事業報告

【はじめに】

当センターも開設から3年が経過。平成28年度は事業間の連携強化と経営面の共有を主として事業を実施した。総務を含めた職員で相互の状況を共有し、必要に応じてフォローを行なう事業所内連携の意識を高めることが出来た。また、ホームヘルプサービスにおいては毎月の利用実績を共有すると共に、サービス提供責任者と総務を中心としながら今後の事業展開の基礎となる方向性を固めることができた。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針1

- 強度行動障害支援者養成研修への参加（2名の職員が基礎研修を修了）
- ホームヘルプサービスにおける安全委員会内で各利用者の医療的ケアの状況を共有。
基礎研修の受講と仙台つどいの家や訪問看護ステーションの看護師の指導を経て、2名の専任ヘルパーが利用者の医療的ケアを実施できるようになった。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針2

- 外部研修への参加。外部研修へ参加後、実践、（例：専任ヘルパーが職員育成の研修に参加した後、期間を空けずに登録ヘルパーのケアに同行。助言や指導を行なった）
- 人事考課制度に則り目標設定の面談、中間面談、振り返りの面談を実施。職員の内的動機を確認した上で参加する研修を選定した）

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針3

- 毎月実施している職員会議に合わせて保守点検と全体清掃を実施。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針4

- レスパイトサービスにおける夜間火災を想定した消防訓練の実施
- ホームヘルプサービスにおける移動支援提供時を想定した行方不明捜索チャートを作成

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針5

- 主たる介護者が突然亡くなった利用者の支援を組み立てる為、事業所内の3事業で連携。その方の通所先である仙台つどいの家とも担当者会議を開催しながら、生活支援を実施することができた。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針6

- サロンスペースを活用したすてっぷサロンの開催
- 南光台包括支援センターが開催する南光台包括圏域ケア会議への参加

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- ホームヘルプサービスにおける利用実績の共有と分析を定例化。今後の運営方針を決定した。
また新規利用者の受入を実施。
平成 28 年度前期の月平均提供時間数 695 時間⇒後期の月平均提供時間数 725 時間
※居宅介護の時間数のみで計算
- ホームヘルパー養成校における事業紹介を実施。
- 大学において学内説明会を 2 度開催。説明会参加者から応募があり、平成 29 年 4 月入職の新規学卒者 3 名を採用するに至った。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	毎月 1 回 (年度末は 月 2 回実施)	参加：管理者・事務員・各事業の主任が参加 内容：各事業の現状共有・課題検討・事業所としての意思決定
職員会議	毎月 1 回	参加：全職員（※登録ヘルパーは除く） 内容：会議や研修の情報共有
ペんたす会議	毎月 1 回	参加：ホームヘルプサービスペんたす 職員 内容：ホームヘルプサービスにおける課題検討・情報共有
ペんたす運営会議	毎月 1 回	参加：管理者・事務員・サービス提供責任者 内容：ホームヘルプサービスにおける利用実績の確認と分析 試算表の作成や事業方針の検討
安全委員会	毎月 1 回	参加：管理者・サービス提供責任者・医療的ケアを行なう職員 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有・利用者個々 のケアマニュアルの作成

< 内外部研修 >

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 6 月 28 日
事業継続計画の確認
行方不明捜索チャートの検討 ・平成 28 年 10 月 25 日
行動障害について | |
|--|--|

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
第 7 回すてっぷサロン 「介護保険制度について」	H28. 4. 17	9 名	南光台包括支援センターの主任介護支援専門員を講師に公的介護保険制度の勉強会を開催。
第 8 回すてっぷサロン 「ラフターヨガ」	H28. 7. 28	9 名	講師をお呼びし、健康体操 ラフターヨガの教室を開催。

第9回すてっぷサロン 「風呂敷大変身」	H28. 9. 12	15名	講師をお呼びし、風呂敷を使った包み方についての教室を実施開催。
第10回すてっぷサロン 「ヴァイオリンコンサート」	H28. 11. 21	20名	演奏家グループをお呼びし、ヴァイオリンのコンサートを開催。
第11回すてっぷサロン 「演劇情動療法」	H29. 2. 1	14名	講師をお呼びし、演劇情動療法についての教室を開催。
びばっと南光台 子ども参観日	H28. 8. 11	2名	次世代育成支援に資するため、子供が保護者である職員の働いているところを実際に見ることができる「子供参観日」を実施。
すてっぷサロン 貸館事業	貸出 全24回 延べ利用者数 196名		サロンスペースを活用し、貸館事業を実施。認知症サポートー養成講座、趣味の教室（こぎん刺しやペーパークラフト）、家族の勉強会が行われていた。

※すてっぷサロンは、共生型福祉施設整備事業の理念に則り、住民相互の交流や学びの場を目的として開催した。また、併せて貸館事業も実施。（いずれも公益的な事業として実施）

< 涉外・他 >

5/12 南光台地域包括圏域会議① 8/25 南光台地域包括圏域会議②	11/10 南光台地域包括圏域会議③ 2/9 南光台地域包括圏域会議④
--	--

< 見学・訪問者一覧 >

H28. 12. 8 白石陽光園 アサンテ職員来所（事業所見学）

H29. 3. 27 N P O法人だれもがともに小平ネットワーク職員来所（事業所見学）

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

7 地域生活サポートセンター「ぴっぽと支倉」 事業報告

【はじめに】

○とびら…計画相談は年々件数が増え続け新規作成を専門性や緊急性などがあるケースと制限をしてきましたが、28年度中に限度数を越えたため作成をほぼ休止しています。その中で、計画が終了するケースや他指定事業所に移行できるケースを模索し業務量の安定を図ってきました。

委託相談支援事業は知的障害だけではなく各種障害の相談も増えるなど、相談のすそ野が広がっていることもあり件数自体が増加しています。また「支援者が不在・障害・高齢などで家庭全体で支援が必要」「母子父子家庭」「医療的ケア」、「高齢・医療・法律など他専門分野と連携が必要」「発達障害や難病など手帳がない」など相談も多様化・複雑化しており、利用者さんへのきめ細かい支援や質の担保などが困難なケースが増えています。一方で発注者である仙台市からの業務依頼も増大・複雑化しており委託相談・計画相談ともに事業所や相談支援員の負担がますます大きくなっています。

それらの状況は他の相談事業所にも言えることで、とびら単独ではできないことを区自立支援協議会各委託相談事業所との日々の連携を通じて、区や各相談事業所の日常的連携、人材育成、個別ケースを地域全体でサポートしていくシステム作りを進めてきました。

○だいち…28年度は目標補助基準時間を超える利用に応えることができました。しかし、高いニーズに反して事業運営システムが実態に合っていないという課題が相変わらずあり、レスパイト連絡協議会において管理者を中心とした制度検討委員会を設置し、具体的な検討を進めてきました。また、現場のコーディネーターを中心に研修会を企画し、職員の学びの場を作ることもできました。

一方、環境整備の面では北部アーチルへの状況報告と交渉を続けた結果、自動火災通報装置の設置や廊下扉の改修などを進めるることができました。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針 1

- 個別ケースを地域全体でサポートしていくシステムを目指し、本人を中心とした他資源とのネットワーク作りの取り組みを進めた。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針 2

- 法人内研修や外部研修等への計画的な参加と情報の提供による自主的な研修参加を進めてきた。

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針 3

- 定期的にミーティングを行なうことでチームでの支援の意識を高め、個々の職員の負担軽減を図ってきた。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針 4

- ひやりはつの所内情報共有と検証。および法人内苦情解決委員会における報告・検証。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針 5

- 人事考課システムを活用し、職員個々の目標に合わせたOJTを行なってきた。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 区自立支援協議会などにおいて、障害分野以外にも児童・地域包括など他分野との連携を意識して行なってきた。
- 通信の発行により、地域住民への事業の周知・啓発を行なってきた。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- 財政状況改善のための中長期的な視点での事業展開の検討は十分とは言えない。
- 大学サークルとの連携や地域へのチラシ配布により介護人確保の取り組みは行ったものの、必要十分に人材を確保することはできていない。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分類	重点課題	具体的取り組み	評価
とびら	・相談支援の質の向上	・OJT や研修参加により全体のスキルアップを図る。	研修案内、市の指定研修の受講は行えたが、個人に合わせて研修計画を作成できるとよかったです。OJTによる育成をより丁寧にしていく。
	・青葉区における地域づくりへの貢献	・支援を通して区や委託・指定相談支援事業所と連携とともに、市への課題提起を行う。 ・青葉区自立支援協議会への主体的な参加	サポートネットあおばで連携し行うことでの相談事業の PR・事業所同士の連携、情報収集・連携のネットワークづくりを効果的に負担少なくおこなえた。
	・サービス等利用計画作成	・サービス等利用計画の作成。 ・他指定事業所への計画作成依頼とケース移行 ・計画作成を通して見えてきた地域課題の抽出	28年度中に限度数を越えたため作成をほぼ休止。その中で、計画が終了するケースや他指定事業所に移行できるケースを模索してきた。
	・事業内の情報及び支援の方向性の共有	・相談員ミーティング、事例検討会議の実施 ・外部研修への参加	定期の相談員ミーティング、密なパソコン記録打ち込みはできた。新たな事業所や制度情報等も共有した。レビュー中心であり細かい支援方針など検討の方法は工夫が必要。
だいち	・事業内の情報共有	・利用状況、利用者・介護人の状況、環境整備等の共有、またひやりはっとの振り返り、検討を行なう	専任スタッフ、介護人と密に行なうことが出来た。
	・職員、介護人の質の向上と人材確保	・法人内レスパイト事業所と協働し、職員・介護人を対象とした研修を実施する ・ボランティアサークルと連携し、イベントの開催 ・近隣への介護人募集チラシの設置	法人内研修に加えレスパイト連絡協議会主催の研修会の参加呼びかけも実施。しかし参加率が低い。大学カリキュラムの過密化に伴い学生介護人の減少に歯止めがかかる状況。連携サークルへの加入者も減少傾向。
	・行政や他事業所間との連携	・レスパイト連絡協議会への参加と連携。運営上の課題を整理 ・課題を連絡協議会から行政へ提起し、共に考えていく	管理者を中心に運営上の課題整理と行政への働きかけを実施。
	・環境整備	・居室や送迎車の管理、台所、トイレ、浴室の衛生管理を行なう。 ・必要備品整備、薬品等の適切保管を行なう。 ・適宜、館内の改修を行う。	経年劣化による設備、備品の消耗が多い中、一つ一つ対処。設備、備品はより計画的な管理が必要。
全体	・経営面の改善	・職員の直接介護比率の検討 ・事業移転等も含む事業所運営に関する検討を法人レベルで行う	安定した比率を維持。 事業運営に関しては継続検討中
	・サポートセンターとしての在り方を検討	・職員会議や地域生活支援検討委員会において検討。	継続検討中

【事業実施状況等】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週1回	ケースレビュー、支援方針検討
とびらケース検討会議	随時	よりこまめな支援方針の検討を行う
とびら全ケースレビュー	年2回	全ケースの状況を確認、終結の検討、ケースの中止の防止
だいちミーティング	随時	情報共有と支援方針検討
2事業ミーティング	年2回	各事業チーフ間で重複ケースのレビュー
チーフ会議	月1回	管理者、総務、相談、レスパイトで情報共有
職員会議	月1回	全職員で情報共有と協議事項検討

< 内外部研修 >

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・法人権利擁護研修（年2回） ・相談支援者研修（全国・東北ブロック） ・レスパイト連絡協議会研修（年2回） ・仙台市主催各ケアマネジメント研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・法人職員研修（非常勤研修、各階級対象研修等） ・サポネットあおば（月2～3回） |
|--|---|

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
レスパイト)そらイベント	年3回	約30名	大学サークル活動との協働

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

8 地域生活サポートセンター「ピボット若林」 事業報告

【はじめに】

毎月の事だが、利用ニーズと利用実績、そして対応できる体制づくりのバランス管理が非常に難しい。やればやるほどニーズはあるが、そのような制度にはなっていない。プラス、制度改正への取り組みも求められるところである。

一方、個人情報管理の高い管理体制が求められてきていることと差別解消と虐待防止の整備が現実問題としてどんどん求められても来ている。

登録ヘルパーの雇用整備を進めてきたが、そこだけではなく事業所全体としても細やかな配慮と緻密な管理が求められており今までの仕事の取り組み方の概念や感覚を一掃していかないとなかなか対応できるものではない。

目的とポイントを絞りながら、より精度の高い支援と運営ができるよう残された課題に向けても対応していきたい。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針 1

- 地域生活を支えるべく、レスバイトとヘルパー、時に相談を交えながら連携を持って進めることができている。高齢化や重度化がすすみ多様なサービスの組み合わせが必要とされている。
- 差別解消、虐待防止、個人情報管理、ケースワーク等の適切な学びも適宜取り組めた。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針 2

- 人事考課の目標設定と自己評価と他者評価を丁寧に進めることで着眼点の理解と自己の気づきを得られるよう工夫してできた。
- シフト調整が支援優位体制なので、もう少し計画的に研修予定を調整していく必要がある。

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針 3

- 働く環境はだいぶ改善されてきている。一部書類作成や提出書類多種による負担感もでてきているので少し書類の取り扱いについて整理していければと良いと考える。
- 各自の強みを共有・評価し、できていないところだけに着目した評価にしないよう心掛けた。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針 4

- ひやりはっとが減らないので、常に検証し周知しながら進めている。
- 契約書類の見直し、仕様書の精査、説明と同意を意識して進めることができた。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針 5

- 職員研修への参加については、予算も含めて十分に取り組むことができなかった。
- 自分の仕事を意識し目的を明確化することで分かり易い仕事を心掛けた。(人物金の周知)

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 大きな参画はできていないが、清掃や防災、各種貸出などできる範囲での取り組みや貢献はできている。もう少し他機関とも連携をさらに進めていきたい。
- 騒音問題で苦情が出ることはなかった。皆が適切な管理を意識して取り組んできた成果である。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- コストの見直しを徹底し管理化に置いて取り扱うよう改善してきた。
- 各事業実績を毎月数値化し事業ごとに全職員が理解した上で業務に当たる意識作り。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
相談事業	旧知的委託費の是正	<ul style="list-style-type: none"> 法人としての働きかけ／要望、訪問 法人相談事業の共有と連携 市や区の自立協での働きかけ 	一名増員で委託費増額になった。しかし、一人あたりの増額には至らず。
	区自立協の組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> 区単位でのネットワークづくり 区単位での課題整理と共有 相談組織の強化と人材育成 	ある程組織化され、課題整理と抽出への取り組みが進んできている。
レス P 事業	実施場所の移転	<ul style="list-style-type: none"> 別場所の模索と具体的な計画化 資金計画 	移転整理まではつながらず。次年度プロジェクト化して対応となる。
	レスパイト事業の今後への模索	<ul style="list-style-type: none"> レスパイト連協との協働 新規利用受け入れ困難のは是正 	意見集約しプランニングまでは行き着くがまだまだ課題が残る。
ヘルプ事業	登録ヘルパー労働環境の安定化	<ul style="list-style-type: none"> 雇用契約後の安定化と明確化 役割の整理、情報の共有 	安定的に移行できた。事務処理整備が未整備。
	ヘルプ事業の拡充と経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> 収支と利用バランスの見方分析 安定後の利用拡大へ 	登録ヘルパーの増員雇用が停滞している。
P 若共通	人材確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> 法人内の求人方法の分析と取組 人材育成の具体的計画化(仕組み) 	育成計画が具体的に進まなかつた。
	個人情報管理の整備	<ul style="list-style-type: none"> 管理システムづくりと整理 内部研修による共有と意識の醸成 	少しづつ管理への意識と整備が進んでいる。今後相談事業以外も整備していく。
	地域との共生差別解消	<ul style="list-style-type: none"> しうがい福祉情勢の発信と啓発 様々な地域協働への参加や取組み 事業運営時の環境管理 	会報の回数を増やし発信力を高めた。地域イベントにも積極的に参加した。
	安定した経営	<ul style="list-style-type: none"> 法人と協働した収支管理 事業計画と資金計画の連動 他者との理解共有(行政、利用者、地域、他団体等) 防災の推進(BCP作成) 	コスト管理を推進した。 実績を数値化し意識共有しながら経営に参加した。 対象物としての防災計画等の整備を進めた。
	公益的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 会議室や駐車場、印刷機貸出継続 泊まるんだーのオプション継続 	・さらなる取り組みができるていない。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月一回	予定、各事業進捗、会議・委員会報告、他
チーフ会議①	各月一回	P若全体確認事項、各事業進捗、法人関連報告 等
チーフ会議②	各月一回	ひやりはっと検証、チーフ会議①残り案件等
各事業会議	各月一回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリ確認、ケース関連等
事務ミーティング	月一回	環境や備品等・経費・労務・情報管理関係の確認

ケースレビュー、事例検討	レビュー月二回 事例検討会月一回	相談員が個別に対応しているケースについて定期的にチーム内で共有し確認及び検討を行っている。
サービスミーティング	月一回	サービス管理責任者二名で事業全般の対応調整と整理検討を行っている。
区自立協運営会議	月一回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年二回	区の障害福祉関係者が集い、顔の見える関係をつくりながら各種情報共有と課題解決に向けて交流を図る。
区障害者相談員連絡会	月一回	相談員が情報共有、事例検討、研修、課題抽出等を行い、地域課題等を解決していくための取り組みの場。
市自立協評価・研修部会	不定期／年数回	市障害者自立支援協議会内の部会で相談員の評価と研修を整理するための部会。担当チーフ相談員
レスパイト事業連絡協議会	随時開催	研修委員会と政策検討委員会に分かれてレスパイト事業の課題と人材育成に取り組んでいる。全体会として連絡会がある。

< 内外部研修 >

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護と虐待防止に関する内部研修①② ・福運運転者講習会 ・福運運転協力者研修全二回 ・サービ管研修 ・防火管理者講習 ・衛生推進者スキルアップ研修 ・中堅・監督職員研修 ・採用戦線報告会とセミナー研修 ・ストレスチェック&特別休暇制度解説セミナー ・福祉人材確保育成セミナー ・リコージャパンソリューションフェア ・決算書の見方セミナー ・社福簿記入門セミナー ・個人情報に関する内部研修 ・グループホーム学会セミナー | <ul style="list-style-type: none"> ・相談中堅者スキルアップ研修 ・相談全連協北海道、東北ブロック合同研修 ・相談スキルアップ研修 ・高次脳機能障害スタッフ研修 ・地域生活拠点等シンポジューム ・在宅医との連携研修 ・リーダーシップ研修 ・C S向上研修 ・リスクマネジメント研修 ・アンガーマネジメント研修 ・アーチル基礎研修 ・リーの会研修 ・ヘルパー視察研修 ・レスパイト連協主催研修二回 <p>※その他法人企画研修参加 等</p> |
|--|--|

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
子供会資源回収参加	年五回	2,3名	地域貢献と町内会会員として参加
地域防災総合訓練	年一回	2名	地域防災を学ぶ。
宮城の萩大通り清掃	年二回	2名	地域貢献
区班総会と側溝清掃	年一回	3,4名	町内会会員と役割としての対応。
P若防災訓練	年四回	10名程度	事業所内の防災に関する備えとして
若林区民祭り	年一回	数名	区自立協ブース参加あり。若区みんつく祭り継続取り組みとして。

< 涉外・他 >

4/26 社福士実習一日対応	10/22 南小泉防災訓練
5/1 専任ヘルパー職員採用	11/3 アピール大行動参加

5/17	専門学校講師派遣全二回／相談員一名	11/25	虐待防止内部研修
5/19	レスパイト連協総会	11/27	介護人連絡会①
5/24	若林消防署査察	12/15	ヘルパー視察研修／なのはな会
6/1	専任ヘルパーびぼっとへ異動一名	12/22	登録ヘルパー新規採用一名
6/8	保護者会清掃活動（ピボ若清掃）	12/23	消防署立会い訓練
6/21	集積所とポールの修理	1/16	旧知的相談事業と市の意見交換会
6/25	移動支援ネットみやぎ総会	1/18	レスパイト連協と市の懇談会
6/28	社労士打合せ 他数回	2/13	市の基幹相談ヒヤリング調査
7/5	試写会	2/22	市の聞き取り調査
7/7	市団協行政懇談会	2/23	若区実務者ネットワーク会議②
7/7	岩沼高等学園合同説明会	2/26	介護人連絡会②
8/25	室内引き戸レール改修	3/14	市の集團指導
8/29	東北文化学園大求人訪問	3/14	相談事業所向け説明会
9/12	後援会役員会	3/16	防災設備法定点検②
9/13	防災設備防災法定点検①	3/26	区班総会（ピボ若会場）
9/15	専門学校求人依頼、ポスター依頼	—	市障害者施策推進協議会 傍聴
9/20	仙台医療秘書専求人訪問	—	市自立協 傍聴数回
9/22	法人上映会	—	研修養成部会 傍聴数回
9/29	若区実務者ネットワーク会議①	—	地域生活拠点部会 傍聴数回
10/17	風呂場の電灯修繕	—	地域部会 傍聴数回
10/20	福運運転者講習会 他一回	—	近隣住民代表と定期懇談 年五回 郵政車両助成事業に特殊車両申請

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見学者	実習者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法 人 内	寄付・寄贈	小 計
4月	0	1	2	11	6	3	2	22	0	47
5月	0	0	1	13	10	4	3	12	0	48
6月	0	0	2	11	11	7	2	6	0	39
7月	0	0	1	14	7	8	1	12	0	43
8月	0	0	0	14	8	6	2	10	0	40
9月	0	0	0	30	7	7	4	4	0	52
10月	1	0	0	19	9	6	5	7	0	47
11月	0	0	0	12	9	7	2	6	0	36
12月	2	0	2	10	11	11	4	16	0	56
1月	0	0	2	7	2	10	4	8	0	33
2月	0		0	13	5	4	7	10	0	39
3月	1	0	1	8	15	5	6	6	0	42
合計	4	1	11	162	100	78	42	119	0	517

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

9 グループホーム（共同生活援助事業） 事業報告

【はじめに】

今年度は、ハウスメーカーにはたらきかけ、土地所有者の建貸しにより、男性グループホーム『にじいろ』（定員6名）を10月に若林区沖野地区に開設しました。東日本大震災からの復興、復旧や土地、建物の取得、人材の確保、入居希望者が少数等により、新規グループホーム開設の計画はあったものの、進まない状況でしたが、ようやく当法人5棟目のグループホームを開設することができました。しかしながら、夜勤者等の職員の確保がとても困難な状況にあり、現在は日々、法人内事業所全体で職員体制のバックアップをしながら、3泊4日の宿泊となっています。今後、十分な宿泊日数を提供するためには、職員の確保が必要となります。しかしながら、職員の人材の確保については、法人全体で求人チラシ等の配布を行っていますが、なかなか充足には至っていません。グループホーム全体で職員の確保が大きな課題となっています。

【経営方針実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 本人主体・本人中心とした支援への取り組み

経営方針1

- 毎月、入居者懇談会を開催し、入居者の声をホーム運営にいかす。

懇談会の話題は、イベント企画や最近の自分自身のエピソードですが、入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。今年度は、「グループホームでいきいきと」（日本GH学会）を活用し、グループホームでの暮らしについて質問する機会を作り、懇談会で出された意見を各ホームに伝え、入居者の声が反映されるようにしました。

○ 職員研修・養成を図るための取り組み

経営方針2

- 各ホーム職員会議や職員全体研修会において、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
- 外部研修参加により、スキルアップを図る。

利用者への関わりや入居者への対応（プライバシーや呼称等）について、職員間の共通認識を図る等学びの機会とし、職員自身の日々の支援の振り返りの場とすることができました。

○ 職場環境の改善、職員のやりがいを高めるための取り組み

経営方針3

- 毎月のGH職員会議において、自身の支援の振り返りや目標を掲げることで、モチベーションの向上を図る。

「自分で意識してできた関わり」や「翌月へむけての目標」を書き込み、発表する機会を設けました。意見交換をするまでには至りませんでしたが、他職員の考え等を聞き、自身の支援の振り返りを行うことができました。

○ リスクマネジメント、コンプライアンスを徹底するための取り組み

経営方針4

- 各ホーム職員会議やGH職員会議において、事故報告を共有する。

定期的に服薬等の事故の情報を共有することで、振り返りと今後の対策を話し合う機会を設けることができました。しかしながら、同じような事故が繰り返し起きてしまう現状もあるため、さらなる職員の意識向上が必要となります。

○ 職員の力を最大限に活かすための取り組み

経営方針5

- 職員間の情報共有と支援に対する意識向上

全職員（非常勤）を対象に2日間、通所事業所にて実習/研修を実施しました。日中の入居者

の様子や他利用者との関わり等を知ることができました。また、通所施設職員と情報交換をもつこともできました。

○ 地域交流、共生社会実現に向けた取り組み

経営方針 6

- 町内会活動に参加し、地域住民同士のつながりをもつ。
- 大規模震災や火災を想定した避難訓練を計画的に実施する。
- グループホーム通信（「ももたろう通信」）を発行し、地域社会へ情報発信をする。

一住民として、地域とつながることができるよう町内会活動に参加し、地域社会における障害者理解に努めました。

○ 財務状況の改善、様々な支援の力(マンパワー)を得るための取り組み

経営方針 7

- グループホーム運営のあり方に関する検討を行う（労働形態の見直し等）。

夜勤に従事し、勤務時間が長くなるため、長時間勤務回避のために三交替制の勤務形態についてシフトを検討していますが、三交替制勤務導入のためには、十分な職員数の確保が必要となり、現状では、導入は難しい状況にあります。職員の身体的、精神的な負担軽減のためにも、引き続き勤務形態の見直しが必要となります。

【その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
健康管理	入居者の健康面の実態把握	<ul style="list-style-type: none">・日々の健康チェックによる状況把握・通院同行による主治医との連携・通所施設、訪問看護との情報共有	通院同行し、主治医との情報共有を行うことで、入居者状況の把握ができた。通所施設 NS、訪問看護 NS との話し合いにより、情報共有ができた。
事業運営・展開	居住支援全般における安定した事業運営を図る 事務的な整備	<ul style="list-style-type: none">・居住支援センター創設に向けた検討・今後の居住支援の展開について検討・夜間支援体制の在り方にについて検討・書類の整備、事務的処理の厳格化	<ul style="list-style-type: none">・居住支援センターについては、賃貸物件借用の方向性が示されたが、資金面の確保が難しく、開設には至らず、具体的な動きはできなかった。・保管書類については、ひこうき雲にて一括管理とした。仙台市による実地指導を実施（2/17）。
家族との関わり	入居者のホームでの生活を家族と共有する	<ul style="list-style-type: none">・各ホームで懇談会を実施（南部ホームは合同）。全体家族懇談会は未実施。	ホームでの生活の写真、食事の写真等で入居者の日常を伝え、情報の共有ができた。
他機関との連携	グループホームに関する情報の収集及び諸課題に対する共通理解	<ul style="list-style-type: none">・他機関（他 GH、日本 GH 学会等）と連携し、グループホーム運営に関する情報の収集	他法人、日本 GH 学会等から情報の収集を行ったが、諸課題の整理までには至っていない。

【事業実施状況等】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月2回	法人、GH運営の方向性、事業報告、課題検討等
職員会議	月1回	GH運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月1回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等
各ホーム職員会議	隔月1回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年2回程度	GH全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
南部/北部グループホーム連絡会	年3回程度	各事業(GH/通所/ヘルプ/相談)情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月1回	意見交換、入居者イベント企画等

* その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

< 内部研修 >

GH職員会議にて	GH全体職員研修会にて
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の心を想像した関わり①～④(7月/8月/9月/10月) NPO法人ゆにふろの資料をもとに意見交換 ・「GHで支援するにあたって」より(7月) ・演習「言われていることが、理解できないとき、どんな気持ちになるか」より(7月) ・研修報告会(11月) ・個別支援計画について①(12月) ・個別支援計画について②(1月) ・「相模原施設殺傷事件を知りあなたはどう思いましたか」(1月) ・「すべて一じ」(2月) ・NHK「入所施設から地域へ(長野県)」より(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体職員研修(6/16.A型センターにて) 「グループホームの成り立ち」「世話人の仕事って、なに?」(冊子「きほんのき」より) ・第1回権利擁護委員会主催研修(10/26.A型センターにて) 「虐待防止ガイドライン」説明 「虐待防止ガイドラインより基本的な心構え」についてグループワーク ・第2回権利擁護委員会主催研修(1/26.A型センターにて) 利用者の思いと相反する際の関わり(事象①②③)についてグループワーク ・法人全体研修(非常勤職員)(7/1.コペルにて)

< 外部研修 >

<ul style="list-style-type: none"> ・アーチル発達障害基礎講座(八鍬、菅原) ・衛生推進者研修(嶋) ・甲種防火管理者講習(廣島) ・強度行動障害支援者養成研修(基礎)(斎藤) ・障害者総合支援法と障害者差別解消法(石川、木村、菅原、廣島) ・県社協コミュニケーション技術/対人援助研修(木村泰) ・県社協コミュニケーション技術/対人援助研修(リーダーシップ)(嶋、今野) ・福祉セミナー～アンガーマネジメント(小野、木村) 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉協会地域支援セミナー(東海林、斎藤、加藤) ・仙台市セミナー「地域生活拠点等」について考える(加藤、加藤仁) ・りーの会職員合同研修会(先進地視察研修報告等)(加藤仁、嶋、小野) ・仙台つどいの家「すべて一じ」 ・仙台市GHセミナー 防犯セミナー(加藤) ・摂食嚥下セミナー(石川、菅原) ・仙団協視察研修(新潟方面)(加藤) ・仙団協福祉フォーラム(加藤、菅原、八鍬) ・仙団協福祉講座「親なきあと」(嶋) ・障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会全国大会(飯田) ・仙台市グループホーム研修会(飯田、加藤)
---	--

IV 參考資料

1 日中活動支援部門 利用実績

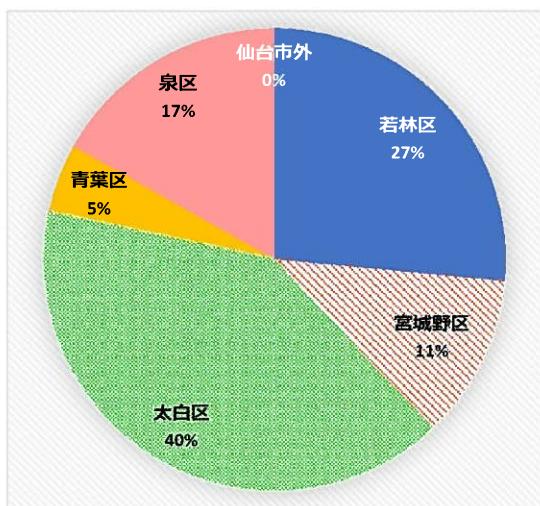
■利用者出欠状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	19	19	22	20	20	20	21	20	20	19	20	22	242
仙台つどいの家	仙台	利用予定者数	703	703	814	740	740	740	777	740	740	703	740	814	8954
		実利用者数	624	609	727	634	629	633	676	632	622	577	627	695	7685
		利用率	88.8%	86.6%	89.3%	85.7%	85.0%	85.5%	87.0%	85.4%	84.1%	82.1%	84.7%	85.4%	85.8%
さんしょ		利用予定者数	99	100	120	104	101	120	121	100	108	104	108	122	1307
		実利用者数	91	95	115	98	96	105	105	93	96	89	99	110	1192
		利用率	91.9%	95.0%	95.8%	94.2%	95.0%	87.5%	86.8%	93.0%	88.9%	85.6%	91.7%	90.2%	91.2%
合計		利用予定者数	802	803	934	844	841	860	898	840	848	807	848	936	10261
		実利用者数	715	704	842	732	725	738	781	725	718	666	726	805	8877
		利用率	89.2%	87.7%	90.1%	86.7%	86.2%	85.8%	87.0%	86.3%	84.7%	82.5%	85.6%	86.0%	86.5%
	一日平均	37.63	37.05	38.27	36.60	36.25	36.90	37.19	36.25	35.90	35.05	36.30	36.59	36.68	
つどいの家・コペル		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	19	20	22	21	20	21	21	21	20	20	20	23	248
		利用予定者数	357	376	413	394	390	395	404	396	375	376	376	432	4684
	コペル①	実利用者数	320	344	388	372	364	346	386	371	352	351	360	404	4358
		利用率	89.6%	91.5%	93.9%	94.4%	93.3%	87.6%	95.5%	93.7%	93.9%	93.4%	95.7%	93.5%	93.0%
		利用予定者数	358	384	413	402	381	400	410	413	392	392	392	445	4782
	コペル②	実利用者数	327	349	359	357	350	366	378	370	356	359	360	418	4349
		利用率	91.3%	90.9%	86.9%	88.8%	91.9%	91.5%	92.2%	89.6%	90.8%	91.6%	91.8%	93.9%	90.9%
		利用予定者数	102	110	102	97	95	95	97	97	92	92	92	96	1167
	オリザ	実利用者数	68	53	63	52	46	60	59	59	39	44	48	61	652
		利用率	66.7%	48.2%	61.8%	53.6%	48.4%	63.2%	60.8%	60.8%	42.4%	47.8%	52.2%	63.5%	55.9%
		利用予定者数	817	870	928	893	866	890	911	906	859	860	860	973	10633
	合計	実利用者数	715	746	810	781	760	772	823	800	747	754	768	883	9359
		利用率	87.5%	85.7%	87.3%	87.5%	87.8%	86.7%	90.3%	88.3%	87.0%	87.7%	89.3%	90.8%	88.0%
		一日平均	37.63	37.30	36.82	37.19	38.00	36.76	39.19	38.10	37.35	37.70	38.40	38.39	37.74
つどいの家・アプリ		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	19	20	22	21	20	21	22	20	20	20	20	23	248
		利用予定者数	604	634	701	669	641	669	688	627	624	625	624	718	7824
	アブリ	実利用者数	562	589	647	617	562	618	638	574	591	554	581	635	7168
		利用率	93.0%	92.9%	92.3%	92.2%	87.7%	92.4%	92.7%	91.5%	94.7%	88.6%	93.1%	88.4%	91.6%
		利用予定者数	68	108	123	115	113	116	121	103	108	109	112	126	1322
	ミント	実利用者数	64	107	111	98	76	91	82	77	80	79	87	89	1041
		利用率	94.1%	99.1%	90.2%	85.2%	67.3%	78.4%	67.8%	74.8%	74.1%	72.5%	77.7%	70.6%	78.7%
		利用予定者数	672	742	824	784	754	785	809	730	732	734	736	844	9146
	合計	実利用者数	626	696	758	715	638	709	720	651	671	633	668	724	8209
		利用率	93.2%	93.8%	92.0%	91.2%	84.6%	90.3%	89.0%	89.2%	91.7%	86.2%	90.8%	85.8%	89.8%
		一日平均	32.95	34.80	34.45	34.05	31.90	33.76	32.73	32.55	33.55	31.65	33.40	31.48	33.10
つどいの山家	八木山	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	19	19	22	20	21	20	20	19	19	20	20	22	241
		利用予定者数	228	228	264	240	252	240	248	248	236	236	248	257	2925
		実利用者数	199	189	227	209	201	198	206	210	196	199	204	207	2445
		利用率	87.3%	82.9%	86.0%	87.1%	79.8%	82.5%	83.1%	84.7%	83.1%	84.3%	82.3%	80.5%	83.6%
若林障害者福祉センター		一日平均	10.47	9.95	10.32	10.45	9.57	9.90	10.30	10.50	10.32	10.47	10.20	9.41	10.15
		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		開所日数	21	20	22	22	20	21	21	20	18	19	19	23	246
	生活介護	利用予定者数	105	96	83	85	84	78	81	78	66	71	76	87	990
		実利用者数	84	64	64	69	65	57	66	60	46	52	55	65	747
		利用率	80.0%	66.7%	77.1%	81.2%	77.4%	73.1%	81.5%	76.9%	69.7%	73.2%	72.4%	74.7%	75.5%
	生活訓練	利用予定者数	9	9	9	8	8	9	8	8	7	8	7	9	99
		実利用者数	9	9	9	8	8	9	8	8	7	8	7	9	99
		利用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	合計	利用予定者数	114	105	92	93	92	87	89	86	73	79	83	96	1089
		実利用者数	93	73	73	77	73	66	74	68	53	60	62	74	846
		利用率	81.6%	69.5%	79.3%	82.8%	79.3%	75.9%	83.1%	79.1%	72.6%	75.9%	74.7%	77.1%	77.7%
		一日平均 (事業所あたり)	4.43	3.65	3.32	3.50	3.65	3.14	3.52	3.40	2.94	3.16	3.26	3.44	
通所 法人合計		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		利用予定者数	2633	2748	3042	2854	2805	2862	2955	2810	2748	2716	2775	3106	34054
		実利用者数	2348	2408	2710	2514	2397	2483	2604	2454	2385	2312	2428	2693	29736
		利用率	89.2%	87.6%	89.1%	88.1%	85.5%	86.8%	88.1%	87.3%	86.8%	85.1%	87.5%	86.7%	87.3%
		一日平均 (事業所あたり)	93.01	93.11	92.56	92.51	90.37	90.95	93.18	91.80	91.34	89.99	92.52	89.81	91.76

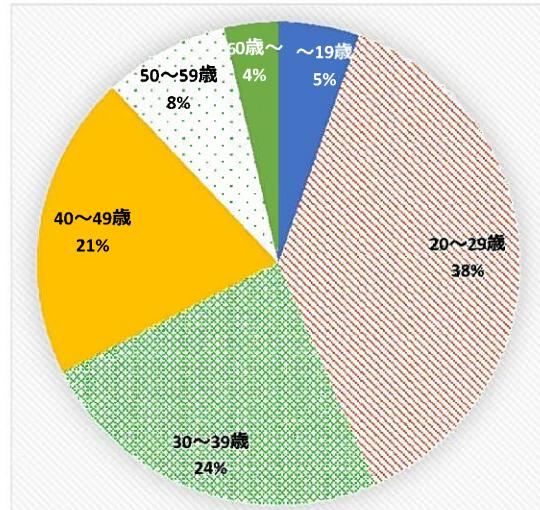
■利用者居住地

		若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
つどい仙台の家	仙台	1	10	0	3	23	0	37
	さんしょ	1	2	0	0	5	0	8
	合計	2	12	0	3	28	0	45
つどいペイエルの家	コベル①	11	3	6	0	0	0	20
	コベル②	19	1	5	2	0	0	27
	オリザ	1	2	3	0	0	0	6
	合計	31	6	14	2	0	0	53
つアドブレイリの家	アブリ	0	0	32	1	0	0	33
	ミント	0	0	7	0	0	0	7
	合計	0	0	39	1	0	0	40
つどい八木の山の家	生活介護	2	0	13	2	0	0	17
福祉若林障害センター者	生活介護	8	1	1	0	0	0	10
	生活訓練	1	0	0	0	0	0	1
	合計	9	1	1	0	0	0	11
法人通所合計	合計	44	19	67	8	28	0	166



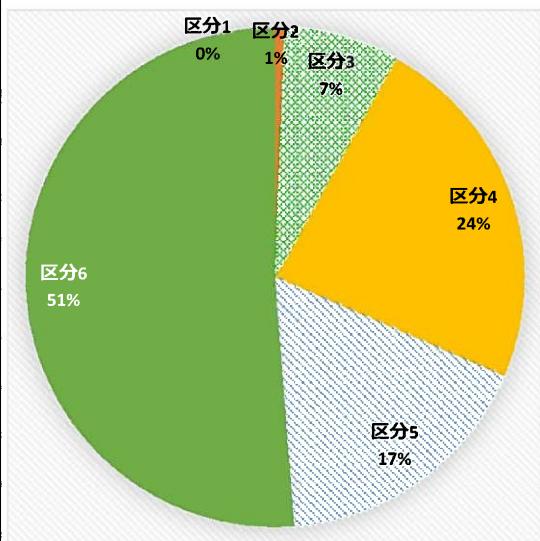
■利用者年齢区分

		~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~	合計
仙台つどいの家	仙台	2	9	11	13	2	0	37
	さんしょ	1	3	1	3	0	0	8
	合計	3	12	12	16	2	0	45
つどいペイエルの家	コベル①	0	8	6	3	1	1	19
	コベル②	0	4	9	6	6	3	28
	オリザ	0	3	2	0	1	0	6
	合計	0	15	17	9	8	4	53
つアドブレイリの家	アブリ	0	20	5	7	1	0	33
	ミント	1	6	0	0	0	0	7
	合計	1	26	5	7	1	0	40
つどい八木の山の家	生活介護	4	6	2	2	2	1	17
福祉若林障害センター者	生活介護	1	4	3	0	1	1	10
	生活訓練	0	0	1	0	0	0	1
	合計	1	4	4	0	1	1	11
法人通所合計	合計	9	63	40	34	14	6	166



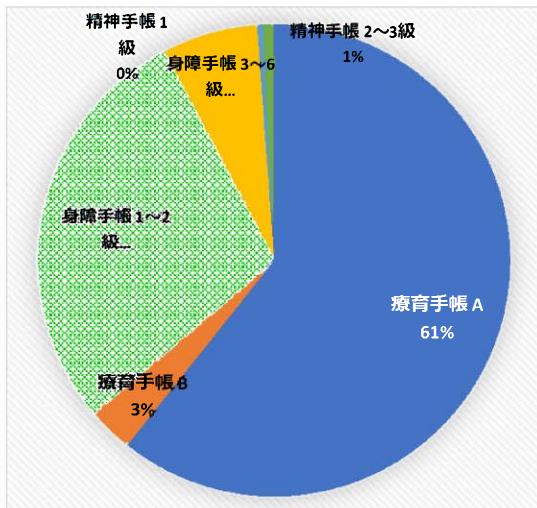
■障害支援区分

		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
つどい仙台の家	仙台	0	0	3	12	5	16	4.9
	さんしょ	0	0	0	0	0	6	6.0
	合計	0	0	3	12	5	22	5.1
つどいペイエルの家	コペル①	0	0	3	6	6	4	4.6
	コペル②	0	0	0	3	5	20	5.6
	オリザ	0	0	0	0	0	6	6.0
	合計	0	0	3	9	11	30	5.3
つどいアドバイリの家	アブリ	0	0	1	8	6	18	5.2
	ミント	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	1	8	6	25	5.4
つどい木の山の家	生活介護	0	1	5	6	3	2	4.0
福祉若林センター	生活介護	0	0	0	3	3	4	5.1
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	0	0	0	3	3	4	5.1
法人通所合計	合計	0	1	12	38	28	83	5.1



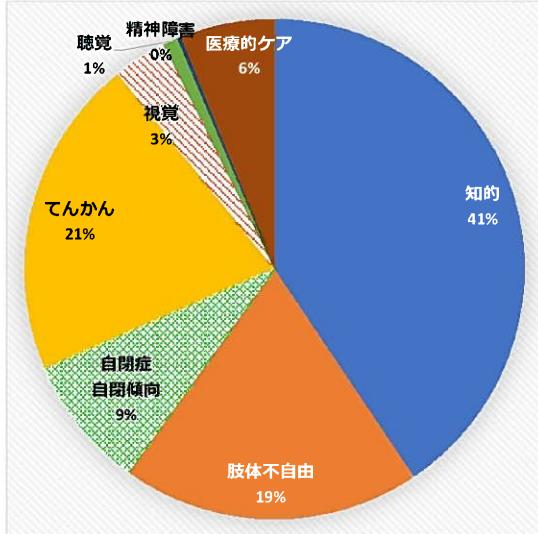
■手帳保持状況

		療育手帳		身障手帳		精神手帳	
		A	B	1級 2級	3級 6級	1級	2級 3級
つどい仙台の家	仙台	35	2	12	8	0	0
	さんしょ	7	0	7	0	0	0
	合計	42	2	19	8	0	0
つどいペイエルの家	コペル①	18	1	1	4	0	0
	コペル②	27	0	17	4	0	0
	オリザ	6	0	6	0	0	0
	合計	51	1	24	8	0	0
つどいアドバイリの家	アブリ	32	1	17	0	0	0
	ミント	7	0	7	0	0	0
	合計	39	1	24	0	0	0
つどい木の山の家	生活介護	14	3	2	1	1	2
福祉若林センター	生活介護	10	0	4	0	0	0
	生活訓練	0	1	0	0	0	0
	合計	10	1	4	0	0	0
法人通所合計	合計	156	8	73	17	1	2



■利用者障害種別

		知的	肢 体 不 自 由	自 閉 症	てん かん	視 覚	聽 覚	精神 障 害	医 療 的 ケ ア
つどい仙台の家	仙台	37	15	19	18	6	4	0	2
	さんしょ	7	7	1	7	2	0	0	6
	合計	44	22	20	25	8	4	0	8
つどいペイエルの家	コペル①	19	5	4	8	0	0	0	0
	コペル②	28	20	1	18	1	0	0	4
	オリザ	6	6	0	6	1	0	0	5
	合計	53	31	5	32	2	0	0	9
つどいアドリの家	アブリ	33	15	8	18	1	0	1	0
	ミント	7	7	0	4	3	0	0	5
	合計	40	22	8	22	4	0	1	5
つどい木の山の家	生活介護	17	0	6	5	1	0	3	0
福祉者セントラル	生活介護	11	4	2	6	0	0	0	3
	生活訓練	1	0	0	0	0	0	0	0
	合計	12	4	2	6	0	0	0	3
法人通所合計	合計	166	79	35	85	14	4	1	25



2 地域生活支援部門 利用実績

■ すてっぷ・はうす 事業実績

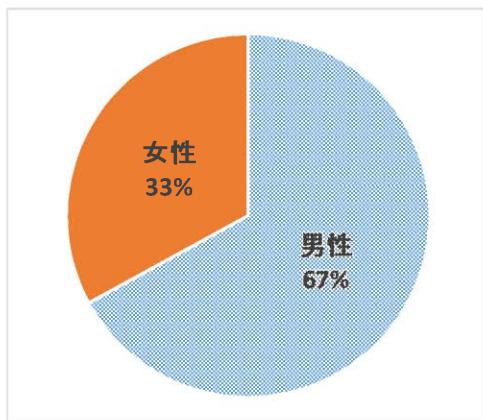
(平成29年3月末日時点)

利用登録者数 : 97名(平成27年度比:-6名)

1. 利用登録者状況

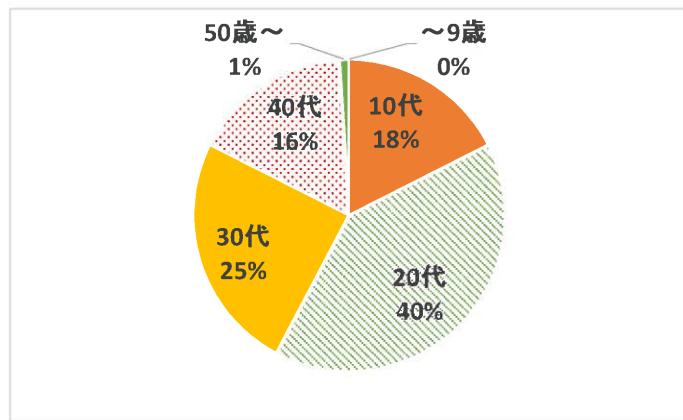
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	65	32



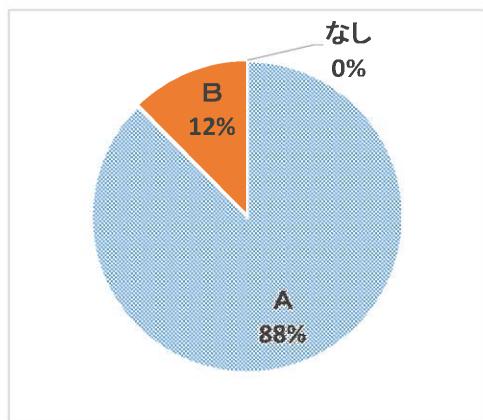
【年齢別】

利用登録者	~9歳	10代	20代	30代	40代	50歳~
年齢別	0	17	39	24	16	1



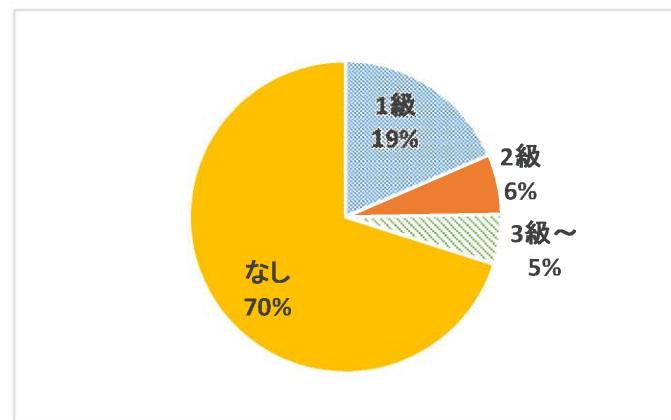
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	85	12	0



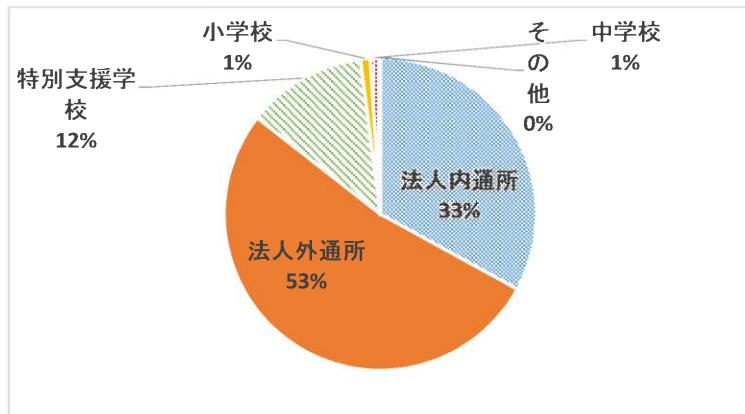
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級~	なし
身障手帳保持	18	6	5	68



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	32	51	12	1	1	0



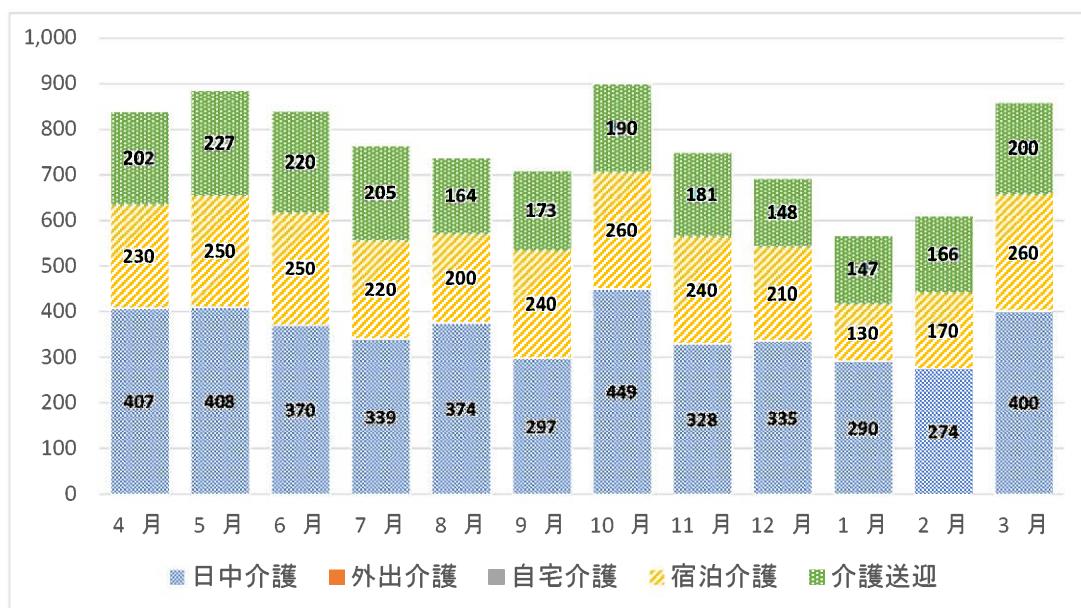
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	407	0	0	230	202	839
5 月	408	0	0	250	227	885
6 月	370	0	0	250	220	840
7 月	339	0	0	220	205	764
8 月	374	0	0	200	164	738
9 月	297	0	0	240	173	710
10 月	449	0	0	260	190	899
11 月	328	0	0	240	181	749
12 月	335	0	0	210	148	693
1 月	290	0	0	130	147	567
2 月	274	0	0	170	166	610
3 月	400	0	0	260	200	860
合 計	4,271	0	0	2,660	2,223	9,154

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ だいち 事業実績

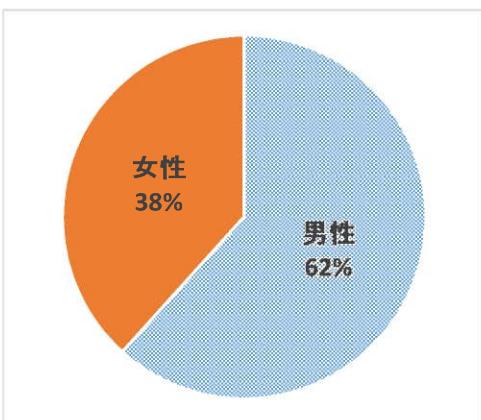
(平成29年3月末日時点)

利用登録者数 : 94名(平成28年度比:-3名)

1. 利用登録者状況

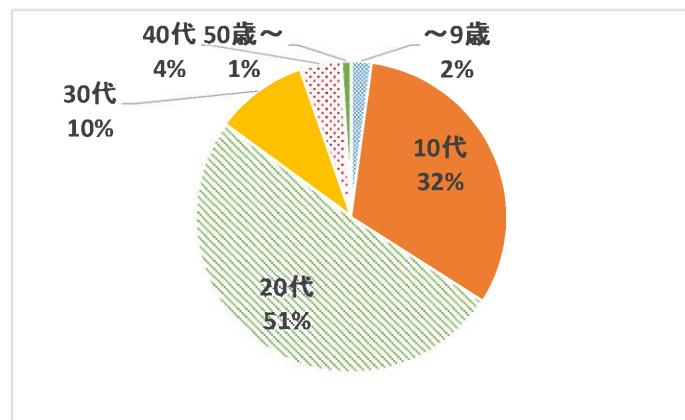
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	58	36



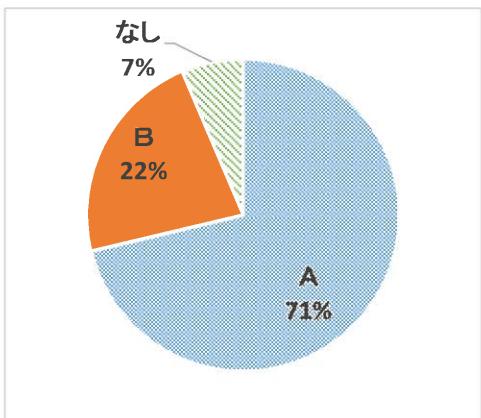
【年齢別】

利用登録者	~9歳	10代	20代	30代	40代	50歳~
年齢別	2	30	48	9	4	1



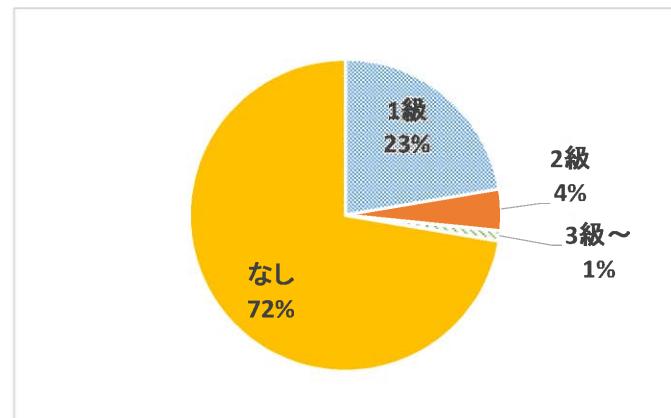
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	67	21	6



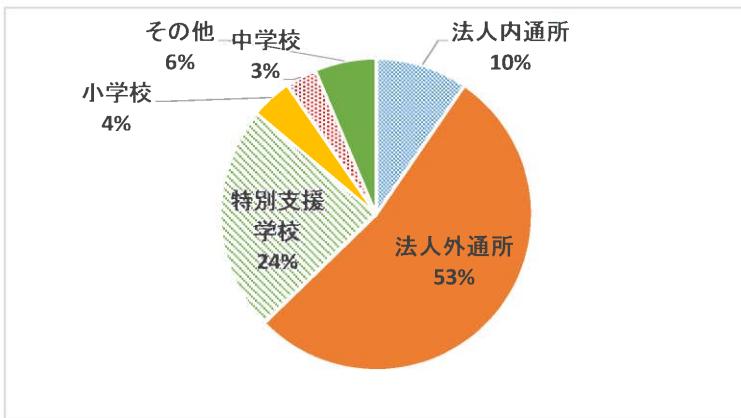
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級~	なし
身障手帳保持	21	4	1	68



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	9	50	22	4	3	6



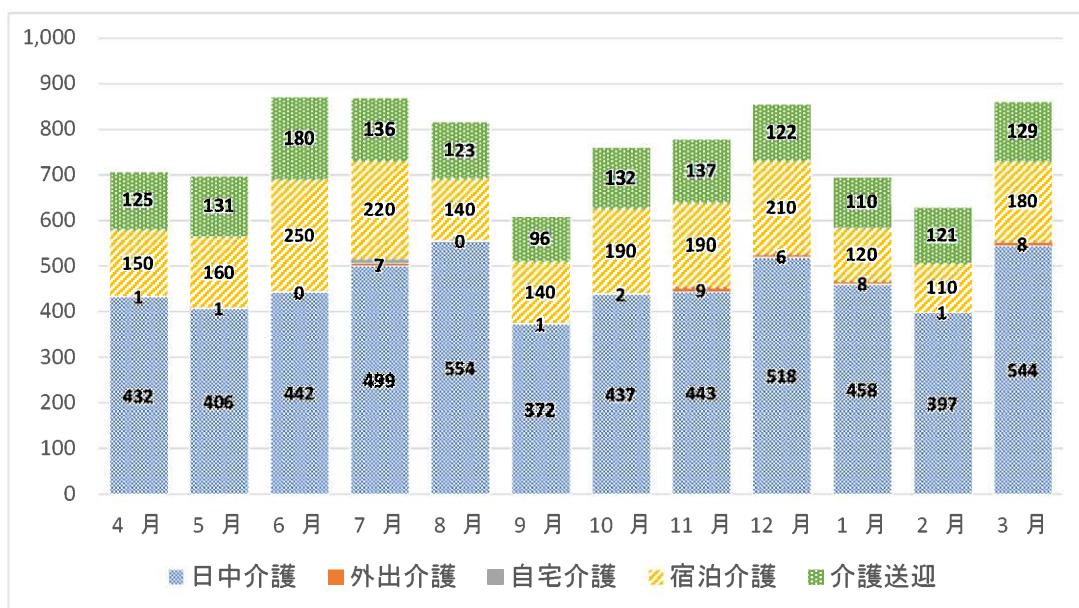
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4 月	432	1	0	150	125	708
5 月	406	1	0	160	131	698
6 月	442	0	0	250	180	872
7 月	499	7	8	220	136	870
8 月	554	0	0	140	123	817
9 月	372	1	0	140	96	609
10 月	437	2	0	190	132	761
11 月	443	9	0	190	137	779
12 月	518	6	0	210	122	856
1 月	458	8	0	120	110	696
2 月	397	1	0	110	121	629
3 月	544	8	0	180	129	861
合 計	5,502	44	8	2,060	1,542	9,156

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊＝10時間



■ すきっぷ 事業実績

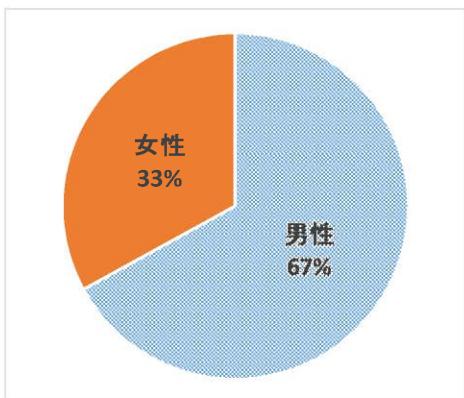
(平成29年3月末日時点)

利用登録者数：94名(平成27年度比：-2名)

1. 利用登録者状況

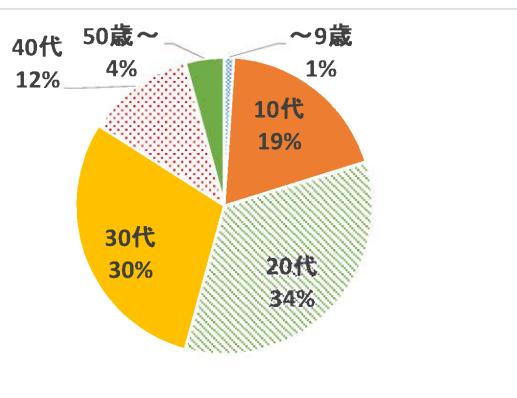
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	63	31



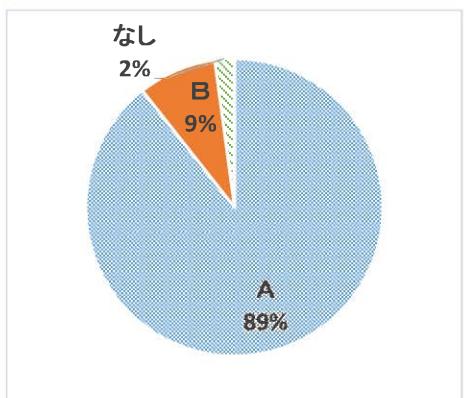
【年齢別】

利用登録者	~9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	18	32	28	11	4



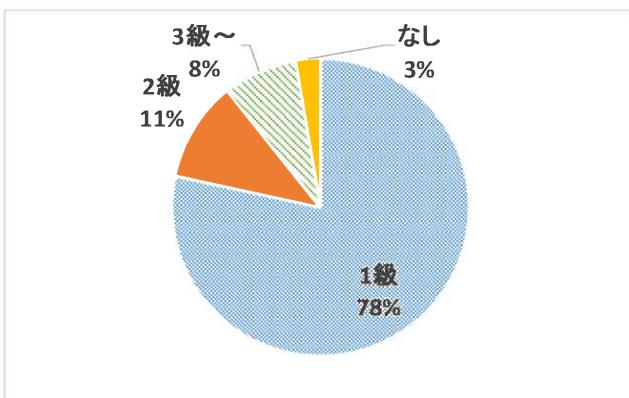
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	84	8	2



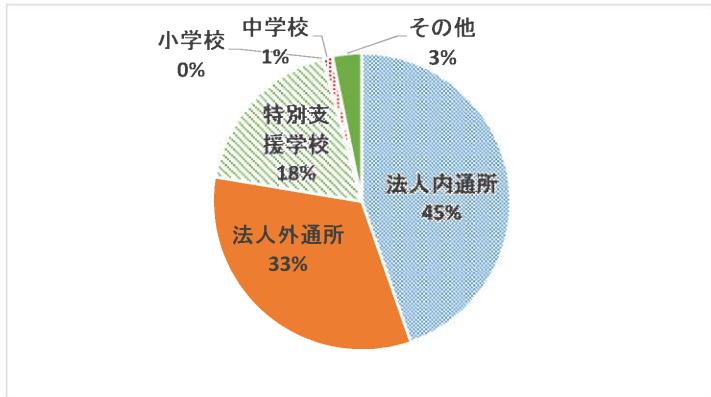
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	29	4	3	1



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	42	31	17	0	1	3



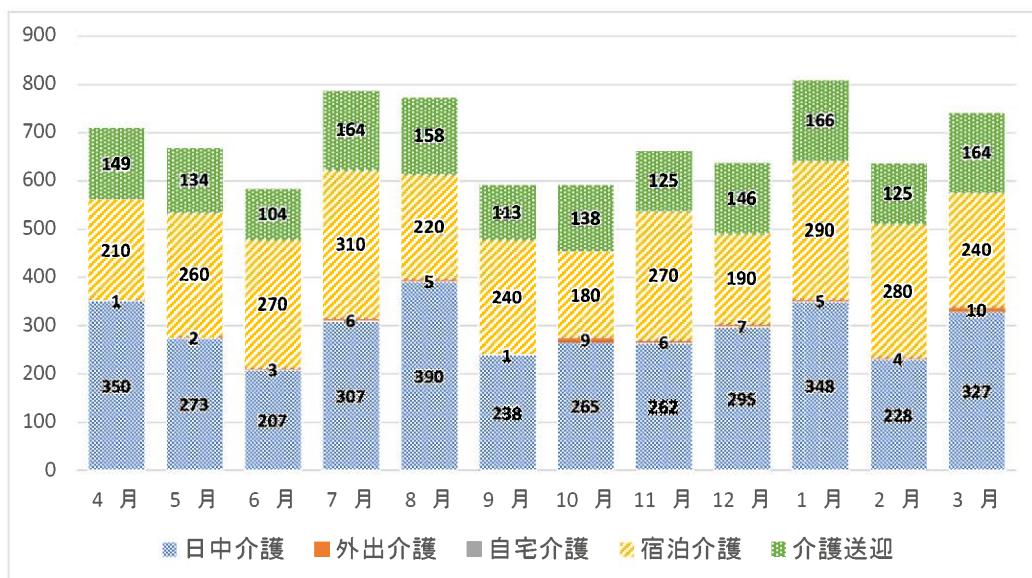
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4月	350	1	0	210	149	710
5月	273	2	0	260	134	669
6月	207	3	0	270	104	584
7月	307	6	1	310	164	788
8月	390	5	0	220	158	773
9月	238	1	0	240	113	592
10月	265	9	0	180	138	592
11月	262	6	0	270	125	663
12月	295	7	0	190	146	638
1月	348	5	0	290	166	809
2月	228	4	0	280	125	637
3月	327	10	0	240	164	741
合計	3,490	59	1	2,960	1,686	8,196

* 医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊=10時間



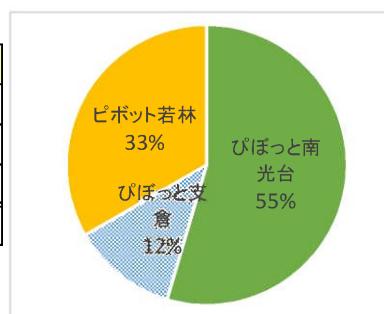
■ 福祉有償運送 事業実績

(平成29年3月末日時点)

1. 利用登録者状況

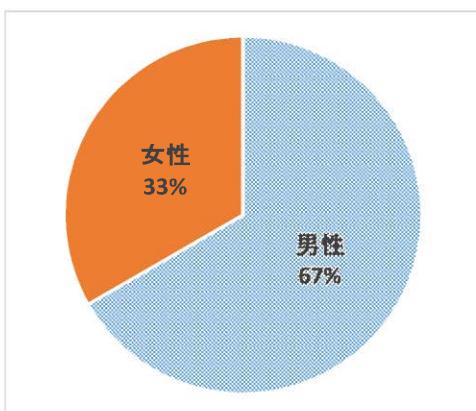
【総 数】

実施事業所名	平成28年度	平成27年度	前年度比
ぴぼっと南光台	18	17	1
ぴぼっと支倉	4	3	1
ピボット若林	11	10	1
合 計	33	30	3



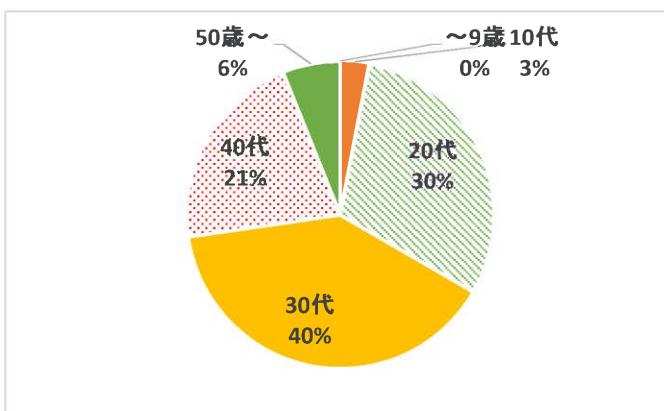
【性 別】

事業所名	男性	女性
ぴぼっと南光台	13	5
ぴぼっと支倉	2	2
ピボット若林	7	4
合 計	22	11



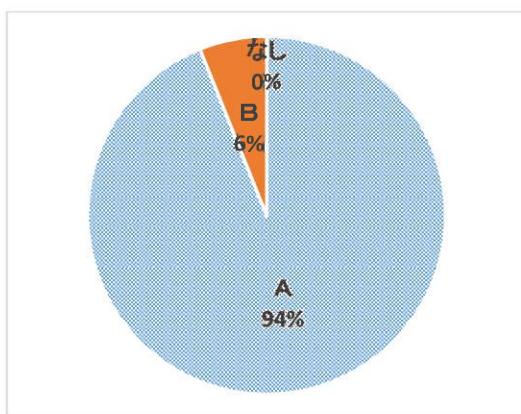
【年齢別】

事業所名	~9歳	10代	20代	30代	40代	50歳~
ぴぼっと南光台	0	1	5	7	5	0
ぴぼっと支倉	0	0	2	1	0	1
ピボット若林	0	0	3	5	2	1
合 計	0	1	10	13	7	2



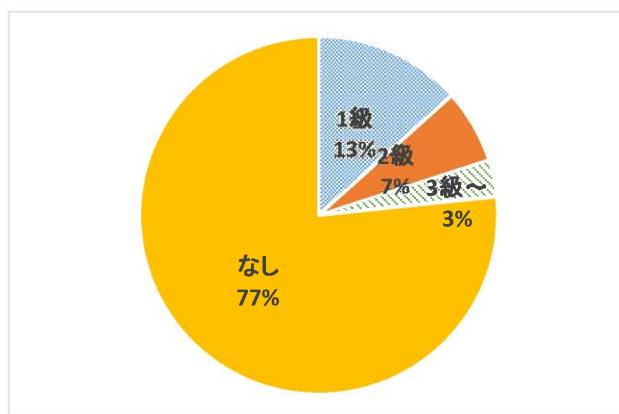
【療育手帳】

事業所名	A	B	なし
ぴぼっと南光台	16	2	0
ぴぼっと支倉	4	0	0
ピボット若林	11	0	0
合 計	31	2	0



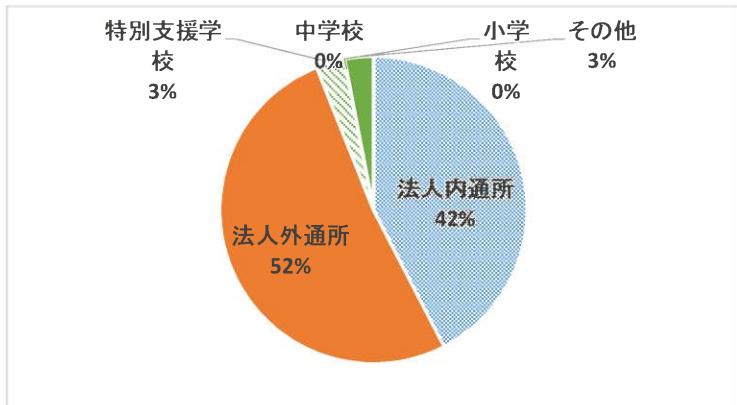
【身障手帳】

事業所名	1級	2級	3級～	なし
ぴぼっと南光台	1	0	0	17
ぴぼっと支倉	0	1	0	0
ピボット若林	3	1	1	6
合 計	4	2	1	23



【在籍】

事業所名	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
びぼっと南光台	7	10	1	0	0	0
びぼっと支倉	1	3	0	0	0	0
ピボット若林	6	4	0	0	0	1
合 計	14	17	1	0	0	1

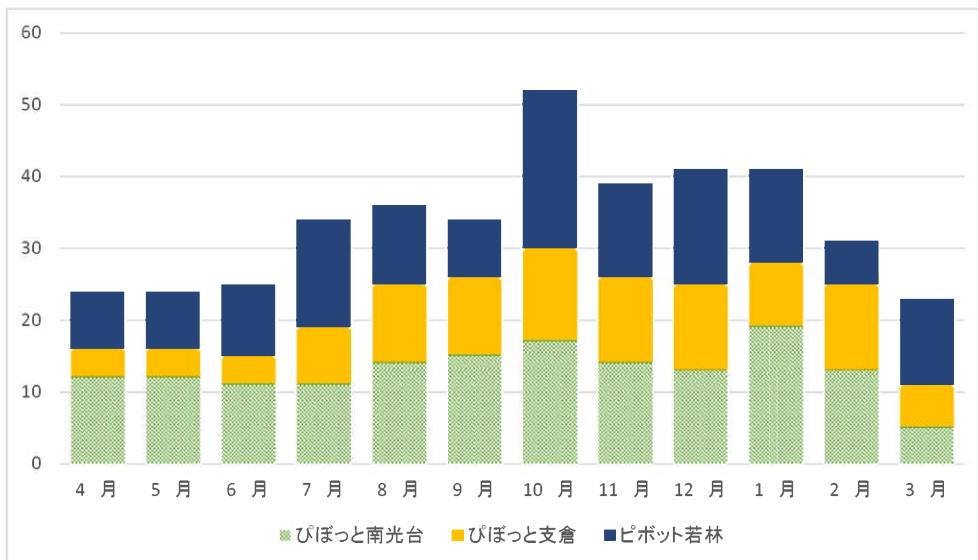


2. 利用状況

【月別運行回数】

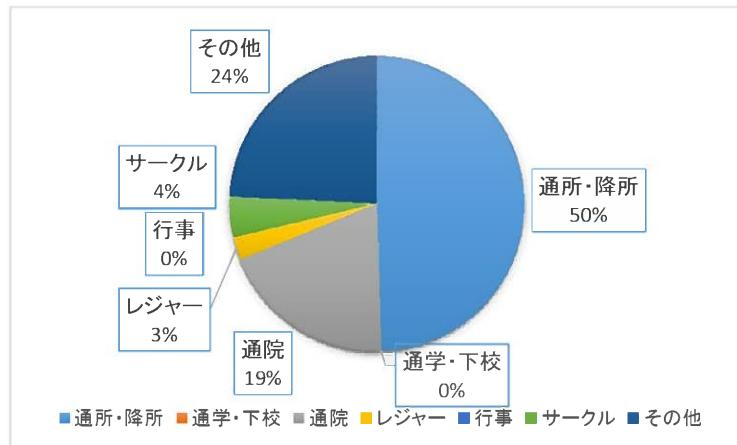
(単位:回)

	びぼっと南光台	びぼっと支倉	ピボット若林	月合計
4 月	12	4	8	24
5 月	12	4	8	24
6 月	11	4	10	25
7 月	11	8	15	34
8 月	14	11	11	36
9 月	15	11	8	34
10 月	17	13	22	52
11 月	14	12	13	39
12 月	13	12	16	41
1 月	19	9	13	41
2 月	13	12	6	31
3 月	5	6	12	23
合 計	156	106	142	404



【利用目的別】

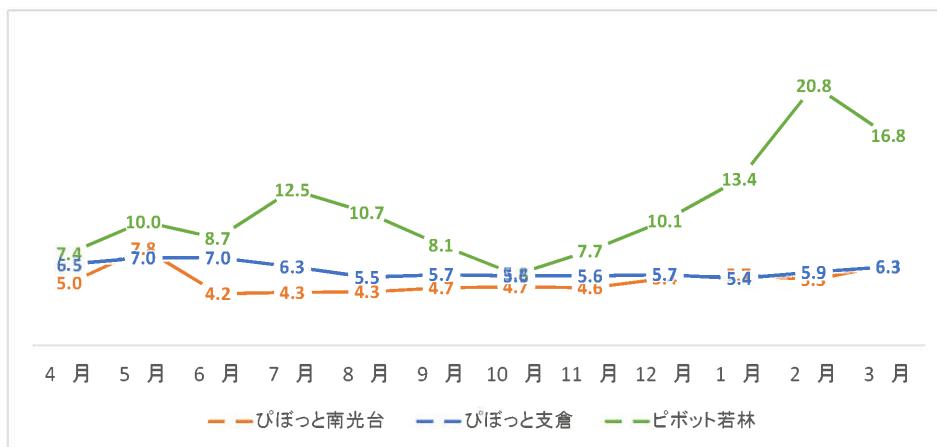
事業所名	通所・降所	通学・下校	通院	レジャー	行事	サークル	その他
びぼっと南光台	38	0	2	0	0	18	98
びぼっと支倉	106	0	0	0	0	0	0
ピボット若林	56	0	76	10	0	0	0
合 計	200	0	78	10	0	18	98



【事業所別 平均移送距離】

(単位:km)

	びぼっと南光台	びぼっと支倉	ピボット若林	月合計
4 月	5.0	6.5	7.4	18.9
5 月	7.8	7.0	10.0	24.8
6 月	4.2	7.0	8.7	19.8
7 月	4.3	6.3	12.5	23.1
8 月	4.3	5.5	10.7	20.5
9 月	4.7	5.7	8.1	18.5
10 月	4.7	5.6	5.8	16.1
11 月	4.6	5.6	7.7	17.9
12 月	5.4	5.7	10.1	21.2
1 月	5.7	5.4	13.4	24.4
2 月	5.3	5.9	20.8	32.0
3 月	6.5	6.3	16.8	29.6
合 計	62.4	72.5	131.9	266.8



■ ペンタス 事業実績

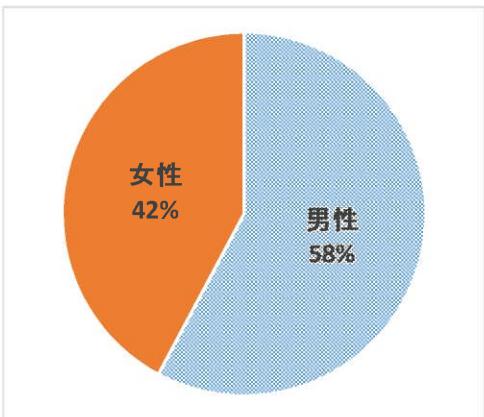
(平成29年3月末日時点)

利用登録者数：64名(平成27年度比：プラス5名)

1. 利用登録者状況

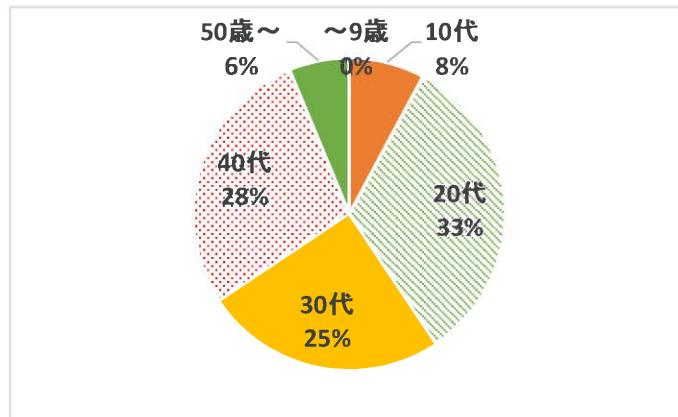
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	37	27



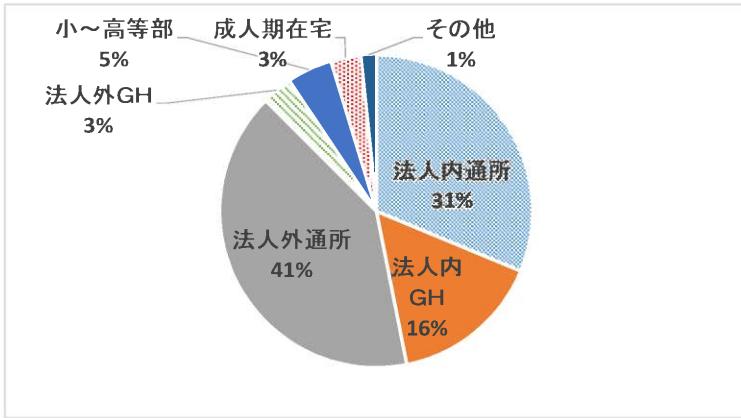
【年齢別】

利用登録者	~9歳	10代	20代	30代	40代	50歳~
年齢別	0	5	21	16	18	4



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	20	10	26	2	3	2	1



2. 利用状況

(単位:時間)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
居宅介護	3,451.0	7,110.5	7,964.0
(うち、GH利用数)	2,659.0	4,933.5	5,168.0
重度訪問介護	0.0	0.0	0.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
行動援護	0.0	138.0	250.5
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
同行援護	0.0	43.0	209.5
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0
移動支援	732.5	3,492.0	4,180.5
(うち、GH利用数)	569.0	805.0	620.0
合計	4,020.0	10,783.5	12,604.5
(うち、GH利用数)	3,228.0	5,738.5	5,788.0

○備考

・平成26年度は10月～3月の半年分のデータ(26年度10月1日開設)

・登録者数

26年度 45名

27年度 59名

28年度 64名

■ びばっと 事業実績

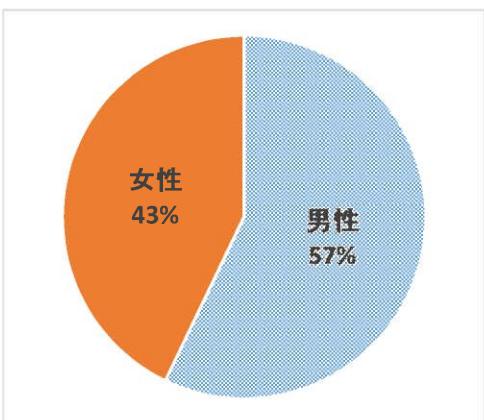
(平成29年3月末日時点)

利用登録者数 : 98名(平成27年度比:+3名)

1. 利用登録者状況

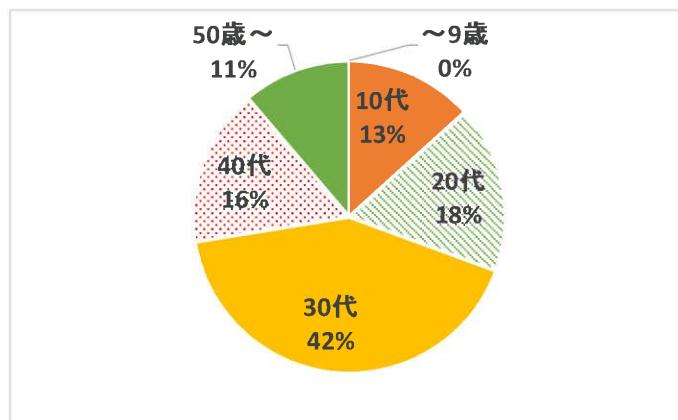
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	56	42



【年齢別】

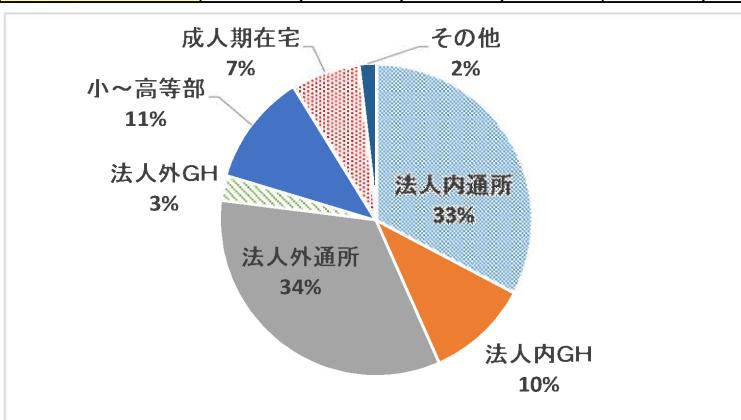
利用登録者	~9歳	10代	20代	30代	40代	50歳~
年齢別	0	13	17	41	16	11



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小~高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	37	12	38	3	13	8	2

※企業就労2名



2. 利用状況

(単位:時間)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
居宅介護	13,317.0	11,785.0	8,348.8	※べんたす移行
(うち、GH利用数)	7,154.5	3,575.0	4,017.0	※にじいろ開設
重度訪問介護	0.0	1,347.0	1,267.5	
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	
行動援護	498.5	134.0	0.0	
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	
同行援護	282.5	330.5	291.5	
(うち、GH利用数)	282.5	330.5	291.5	
移動支援	14,022.5	11,603.0	10,685.5	※べんたす移行
(うち、GH利用数)	1,616.0	1,025.5	952.5	
合計	28,120.5	25,199.5	20,593.3	
(うち、GH利用数)	9,053.0	4,931.0	5,261.0	

■ 障害者相談支援事業所「とびら」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家								
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ひばっと支倉 障害者相談支援事業所 とびら								
	住 所	青葉区支倉町2-35 ひばっと支倉内								
対象		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者		128	12	2	83	32	4	0	0	1
障害児		64	8	4	47	3	7	0	0	0
計		192	20	6	130	35	11	0	0	1
支 援 方 法										
方法分類		訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数		208	70	96	328	48	47	746	0	1543
支 援 内 容										
内容分類		①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数		675	293	231	104	53	203		114	
ピアカウンセラー(再掲)		0	0	0	0	0	0		0	
内容分類		⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数		276	162	72	10	8			2201	
ピアカウンセラー(再掲)		0	0	0	0	0			0	

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	2	4	5	7	3	9	10	7	6	6	7	6	72.0
療育技術指導事業	1	4	2	1	0	1	4	0	0	2	2	4	21.0
計	3	8	7	8	3	10	14	7	6	8	9	10	93.0

平成28年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	11	28	18	17	16	22	18	22	20	23	25	21	241.0	20.1
モニタリング	36	37	23	36	33	28	33	38	24	32	26	46	392.0	32.7
計	47	65	41	53	49	50	51	60	44	55	51	67	633.0	52.8

■ 障害者相談支援事業所「くれよん」 事業実績

実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家								
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ピボット若林 障害者相談支援事業所 くれよん								
	住 所	若林区遠見塚2-16-15 ピボット若林内								
対象		実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者		39	6	0	30	11	3	1	0	0
障害児		34	4	6	17	0	7	0	2	0
計		73	10	6	47	11	10	1	2	0
支 援 方 法										
方法分類		訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数		130	19	47	300	120	37	359	0	1012
支 援 内 容										
内容分類		①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数		521	141	217	40	34	167			66
ピアカウンセラー(再掲)		0	0	0	0	0	0			0
内容分類		⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他				合計
延件数		225	115	180	23	16				1745
ピアカウンセラー(再掲)		0	0	0	0	0				0

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	9	8	10	8	12	10	12	7	6	13	12	13	120.0
療育技術指導事業	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	5.0
計	9	8	11	9	12	11	12	7	7	13	13	13	125.0

平成28年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	14	13	8	11	13	9	13	8	12	18	9	12	140.0	11.7
モニタリング	27	24	26	23	18	17	28	29	17	18	20	14	261.0	21.8
計	41	37	34	34	31	26	41	37	29	36	29	26	358.0	29.8

■ 障害者相談支援事業所「ゆあらいふ」 事業実績

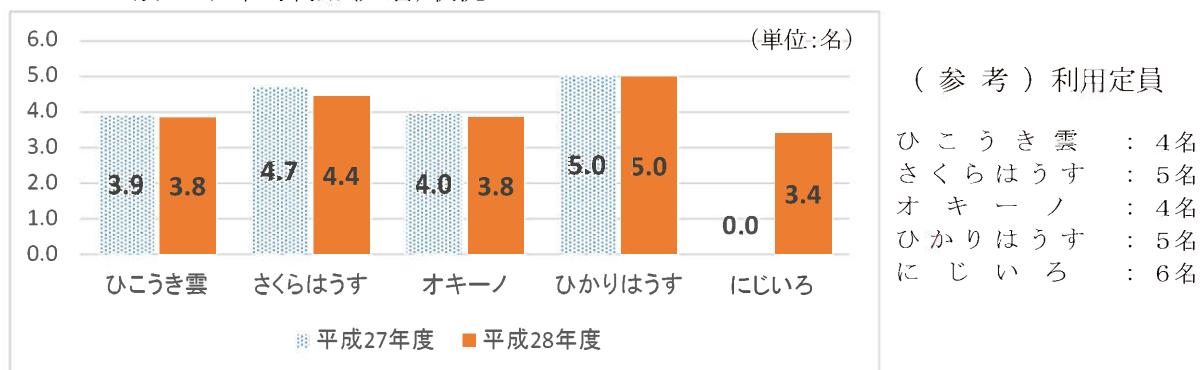
実施主体名称		社会福祉法人 つどいの家												
実施施設	名 称	地域生活サポートセンター ひばつと南光台 指定障害者相談支援事業所 ゆあらいふ												
	住 所	泉区南光台3-1-24 ひばつと南光台内												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	5	7	2	10	4	5	8	0	8	3	4	7	63.0	5.3
モニタリング	1	14	6	14	5	4	9	6	5	6	8	9	87.0	7.3
計	6	21	8	24	9	9	17	6	13	9	12	16	150.0	12.5

3 居住支援部門 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28年度利用実績(人)	518	543	519	539	545	525	3,189
ひこうき雲	114	123	105	116	120	118	696
さくらはうす	134	141	142	144	146	136	843
オキーノ	120	124	122	124	124	122	736
ひかりはうす	150	155	150	155	155	149	914
にじいろ							0
H27年度利用実績(人)	529	542	534	531	531	527	3,194
ひこうき雲	117	118	117	122	119	118	711
さくらはうす	142	145	147	146	140	140	860
オキーノ	120	124	120	108	119	120	711
ひかりはうす	150	155	150	155	153	149	912
にじいろ	0	0	0	0	0	0	0
前年度実績比較(人)	△11	1	△15	8	14	△2	△5
ひこうき雲	△3	5	△12	△6	1	0	△15
さくらはうす	△8	△4	△5	△2	6	△4	△17
オキーノ	0	0	2	16	5	2	25
ひかりはうす	0	0	0	0	2	0	2
にじいろ	0	0	0	0	0	0	0

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
H28年度利用実績(人)	627	612	609	616	578	647	573.2	6,878
ひこうき雲	123	118	121	116	110	122	117.2	1,406
さくらはうす	138	128	125	125	125	142	135.5	1,626
オキーノ	114	116	113	113	104	112	117.3	1,408
ひかりはうす	155	149	151	155	139	154	151.4	1,817
にじいろ	97	101	99	107	100	117	103.5	621
H27年度利用実績(人)	544	529	547	532	512	546	533.7	6,404
ひこうき雲	120	118	121	117	114	122	118.6	1,423
さくらはうす	145	141	147	137	137	146	142.8	1,713
オキーノ	124	120	124	124	116	124	120.3	1,443
玉山庸子 様	155	150	155	154	145	154	152.1	1,825
にじいろ	0	0	0	0	0	0	0.0	0
前年度実績比較(人)	83	83	62	84	66	101	39.5	474
ひこうき雲	3	0	0	△1	△4	0	△1.4	△17
さくらはうす	△7	△13	△22	△12	△12	△4	△7.3	△87
オキーノ	△10	△4	△11	△11	△12	△12	△2.9	△35
ひかりはうす	0	△1	△4	1	△6	0	△0.7	△8
にじいろ	97	101	99	107	100	117	103.5	621

■ ホーム別 1日平均利用(入居)状況



4 寄附金収入内訳

■ 法人本部

(単位；円)

No	団体名	金額	備考
1	コペル保護者会 様	40,208	
2	ブルーシップマリナーズ 様	8,000	
3	仙台つどいの家保護者会 様	150,000	
4	チーム廣瀬 代表 廣瀬治代 様	105,000	
5	つどいの家連合保護者会 様	600,000	
6	NPO法人 沙羅の森 様	119,000	
7	アブリ保護者会 様	320,000	
8	有生活空間工房(代表 佐藤浩) 様	50,000	
9	つどいの家後援会 様	4,981,553	
10	G Hにじいろ保護者会 様	200,000	
11	白石庵敬神会 代表理事 瀧口民郎 様	200,000	
12	G Hさくらはうす世話人一同 様	4,176	
13	社福)聖坂学園 オリブ工房(施設長 高山健)様	33,352	
小計		6,811,289	
No	個人名	金額	備考
1	村上秀一 様	16,490	
2	阿部達 様	16,500	
3	久保野恵美子 様	6,000	
4	三浦俊一 様	6,000	
5	川住隆一 様	3,000	
6	栗山ふさ江 様	10,000	
7	下郡山和子 様	82,500	
8	可野裕一 様 (職員)	10,000	
9	山口収 様 (職員)	7,500	
10	東弘道 様 (利用者家族)	12,000	
11	大野恵江 様	10,000	
12	玉山庸子 様	5,000	
13	内出琢也 様	4,490	
14	富田耀 様	1,000,000	
15	下郡山徹一 様	6,000	
16	日浦学 様	100,000	
17	茅野勲 様	100,000	
18	佐々木健 様 (職員)	5,000	
小計		1,400,480	
平成28年度合計		8,211,769	

■ 仙台つどいの家

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	仙台つどいの家保護者会 様	1,788,200	送迎協力金
2	職員の会 様	65,201	
3	匿名希望者 様	5,332	
4	トントン工房 様	80,000	
5	山口収 様 (職員)	8,000	
6	坂田絢子 様	10,000	
7	佐々木敏明 様	10,000	
8	チャリティーコンサート会場募金 様	35,738	
9	奥津勇吾 様 (利用者家族)	150,000	
平成28年度合計		2,152,471	

■ つどいの家・コペル

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	赤井澤功子 様 (利用者)	50,000	
2	コペル保護者会 様	147,995	
3	コペル職員有志 様	4,650	
4	石道敦 様 (職員)	308,715	
5	コペル保護者会 様	3,127,450	送迎協力金
平成28年度合計		3,638,810	

■ つどいの家・アプリ

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	アプリ保護者会 様	3,811,280	送迎協力金
2	坂本博 様 (利用者家族)	20,000	
3	高杉和豊 様 (職員)	5,428	
4	大塚貴司 様 (職員)	3,000	
5	匿名希望者 様	3,000	
6	生江康子 様 (利用者)	3,000	
7	伊藤慶子 様	50,000	
8	斎藤幸江 様	10,000	
9	アプリ職員一同 様	18,110	
平成28年度合計		3,923,818	

■ 八木山つどいの家

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	八木山つどいの家保護者会 様	923,600	送迎協力金
2	聖ルカ幼稚園父母の会 様	5,000	
3	高橋和 様 (利用者家族)	100,000	
4	仙台建設業協会 様	50,000	
平成28年度合計		1,078,600	

■ ひばっと南光台

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	福地 慎治 様 (職員)	265,000	
2	一般社団法人 仙台建設業協会 様	50,000	
平成28年度合計		315,000	

■ ひばっと支倉

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	永野静 様 (利用者)	5,000	
2	高橋和 様 (利用者家族)	100,000	
平成28年度合計		105,000	

■ ビボット若林

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	佐藤春奈 様 (職員)	60,345	
2	匿名希望者 様	10,000	
平成28年度合計		70,345	

■ グループホーム

(単位；円)

No	個人・団体名	金額	備考
1	東北自動車総連 様	299,808	家電品寄贈
2	G Hにじいろ保護者会 様	300,000	
平成28年度合計		599,808	

5 補助金等収入内訳

No	名称	分類	補助目的	金額(円)	受入先 (部門名)
1	仙台市重症心身障害生活介護事業費補助金	行政	事業運営費	12,932,833	日中活動支援
2	仙台市重度重複障害者等受入通所施設等運営費補助金	行政	職員加配	34,544,000	日中活動支援
3	仙台市民間社会福祉施設運営費補助金	行政	利子補給	60,480	日中活動支援
4	仙台市要医療的ケア利用者受入事業運営費補助金	行政	職員加配	3,174,000	日中活動支援
5	宮城県地域医療介護総合確保事業補助金	行政	資格取得等	335,000	その他
6	仙台市障害者家族支援等推進事業補助金	行政	事業運営費	47,563,800	地域生活支援
7	同(医療レスパイト)	行政	事業運営費	149,700	地域生活支援
8	仙台市移動支援事業補助金	行政	事業運営費	34,411,230	地域生活支援
9	仙台市共同生活住居整備促進事業補助金	行政	施設設備整備費	1,500,000	居住支援
10	仙台市障害福祉施設整備費補助金	行政	施設設備整備費	5,179,000	居住支援
11	仙台市小規模地域活動センター運営費補助金	行政	事業運営費	4,326,000	日中活動支援
12	日本財団福祉車両助成金	民間	車両整備費	2,100,000	日中活動支援
(合 計)				146,276,043	